

《基礎分野 思考表現力》

科目名	情報リテラシー			科目コード	DN111001
評価責任者	晴佐久 悟 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	15回
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。 -7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。			
<b>授業の目的とねらい</b>					
社会人としての倫理観のもと、適切な情報の利活用能力と安全な情報管理能力の育成のために、コンピュータとソフトウェアの活用方法や情報通信ネットワークを利用した情報検索法について理解し、情報の価値とモラルや情報の収集、加工、廃棄などの情報のセキュリティ管理方法を習得するとともに、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場での活用について理解する。 この教科では、配布プリント（演習資料など）とパソコン（Windows）を使用して演習する。					
<b>到達目標</b>					
1. 全体像の理解 知識 1) アプリケーションソフト（Word、Excel、Power Point）の利用法について説明できる。 2) Moodle、Zoom、看護ポータルサイトの利用法について説明できる。 3) 情報モラルと情報セキュリティについて説明できる。 4) 医療に活用されるIT、ICT、IoT、IoMT、AIとELSIの諸問題への対処を説明できる。 2. 態度形成 態度 1) アプリケーションソフトを使用して、レポート提出先やメール送信先への失礼のない基本的態度を養う。 2) 情報社会におけるSNS、ICTでの取り扱いに関する基本的態度を養う。 3. スキル形成 1) Word、Excelを利用して、文書、表を作成できる能力を身につける。 2) Power Pointを利用して、資料を作成し、プレゼンテーションできる能力を身につける。 3) 学内で利用しているICTを利用できる能力を身につける。 4) 情報モラルと情報セキュリティを守る能力を身につける。					
<b>準備学修</b>					
講義前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。学生は課せられる課題や、その他学習活動に約15時間を費やすこと。 講義後は、配布資料を中心に、講義内容を復習すること。					
<b>成績評価基準</b>					
各ステップの態度（20点）、授業態度・提出課題（80点）として総合100点で評価する。課題の締め切りに遅れた場合は、減点されるので、締め切り日に注意する。授業態度には、授業に臨む姿勢、プレゼンテーション、グループ討議などのディスカッションが含まれる。					
<b>課題等に対するフィードバック</b>					
評価後に返却し解説を行う。					
<b>教科書・参考書など</b>					
教科書：『情報モラル&情報セキュリティ』 富士通FOM 富士通FOM出版					

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	晴佐久悟、秋永和之	ユニット1 1) 情報処理実習室の機器 2) 学内LAN 上の学生システム 3) パスワードの管理法
2	晴佐久悟、秋永和之	ユニット2 1) ソフトウェアの役割 2) アプリケーションソフトを利用して作成したファイルの保存 3) メールを設定し、添付ファイルのある電子メールの送受信
3	晴佐久悟、秋永和之	ユニット3 1) 遠隔授業のシステム 2) 看護ポータルサイトの学外での遠隔操作の実施 3) Moodle、看護ポータルサイトのアクセス・ログイン
4	晴佐久悟、門司真由美	ユニット4 1) Moodleの利用 2) 看護ポータルサイトの利用
5	晴佐久悟	ユニット5 1) 文書作成ソフトの基本操作、そのソフトを使用してのレポートの作成 2) メールのマナー、メール利用
6	晴佐久悟	ユニット6 1) 表計算ソフトを用いた平均値、標準偏差の算出 2) 表計算ソフトを用いたグラフの作成とレポート作成
7	晴佐久悟	ユニット7 1) インターネットを利用した情報収集 2) パソコン上での画像処理
8	晴佐久悟	ユニット7 3) 収集した情報や画像処理を用いた、効果的なプレゼンテーションの実施
9	晴佐久悟	ユニット8 1) インターネットを利用した適切な医学情報の収集
10	晴佐久悟	ユニット8 2) 収集した医学情報を利用した適切なプレゼンテーションの実施
11	内田荘平	ユニット9 1) 情報モラルとは何か、2) 情報セキュリティ対策はなぜ必要か、3) 個人情報の適切な取り扱いの必要性について、4) 医療施設において個人情報保護に関するガイドラインに従った行動をとる方法
12	内田荘平	ユニット9 1) 創作者の権利を保護する著作権とは何か 2) コピー＆ペーストをしたレポートを提出する影響 3) 引用のルール 4) デジタルデータの著作権
13	内田荘平	ユニット9 1) ネット社会に潜む危険と対策、2) コンピュータウイルスの感染の経路と影響、3) パソコンやスマートフォンのデジタルデータを守るための方法、4) パスワードの重要性と管理簿注意事項、5) ネットショッピング等でトラブルに遭わないための注意事項
14	内田荘平	ユニット10 医療におけるIT化の進展と諸問題 1) IT (Information Technology)、ICT (Information and Communication Technology)、IoT (Internet of Things) とは何か 2) 医療における倫理的・法的・社会的な課題 (ELSI) への対応
15	内田荘平	ユニット10 医療におけるIT化の進展と諸問題 医療情報システムについて、その方法と諸問題 3) 医療情報システム、4) 電子カルテ、5) 看護支援システム、6) 看護情報、7) AIを活用した看護技術と看護サービス

《基礎分野 思考表現力》

科目名	基礎ゼミナール			科目コード	DN111005
評価責任者	中島 富有子 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	15回
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。			
<b>授業の目的とねらい</b>					
<p>大学において看護を学ぶ学生としての目的意識を持ち、自主的に学ぶ態度を身につけることを目的とする。看護を学ぶ目的を認識し、主体的に学ぶ態度と学習方法（授業の受け方、ノート・テイキングなど）を修得する。さらに、インターネットや図書システムを活用した文献検索方法などについて理解した上で自己の学習方法を見出し、自己の課題に取り組めるように、課題探求、問題解決能力を養う。また、アカデミック・スキルの基盤となる討議法、プレゼンテーション方法を学ぶ。討議法においては、様々な角度から問題を検証して解決策を絞り込む能力を育成する。プレゼンテーションでは、いかに聞き手を「説得できるように伝達するか」を意識しながら、「要点をまとめて整理し」、「聞き手の立場を考えた表現をする」といった基本的な技術を修得する。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>1.全体像の理解 知識 1) 文献を活用して自己の主張をまとめることができる。</p> <p>2.態度形成 態度 1) グループディスカッションに積極的に参加できる。 2) グループメンバーとコミュニケーションをとり、協働できる。 3) 計画的に課題に取り組むことができる。</p> <p>3.スキル形成 1) 自己の振り返りについて文章を書ける。</p>					
<b>準備学修</b>					
事前課題のレポートを作成し、初回授業にのぞむ。各回に必要な資料や文献を準備する。準備学習に必要な時間は、全体で60時間である。					
<b>成績評価基準</b>					
個人で作成するレポート（80点）、グループディスカッションへの参加態度やグループでのプレゼンテーションなどの評価（20点）の集計（100点満点）で評価する。課題の締め切りに遅れた場合は、減点されるので、締め切り日に注意する。					
<b>課題等に対するフィードバック</b>					
課題レポートは、評価後に返却する。評価内容やコメントは、評価者から個別に伝える。					
<b>教科書・参考書など</b>					
適宜指示をする。					

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	中島富有子、晴佐久悟、得能智武、荒川満枝	ユニット1 ポートフォリオ 1) 4年間の学習について概要を理解し、ポートフォリオの活用、授業ノートのとり方を学ぶ。
2	中島富有子、晴佐久悟、得能智武、荒川満枝	2) 授業を通して、自己の学習態度、ノートのとり方を振り返ることができる。
3	中島富有子、晴佐久悟、得能智武、荒川満枝	ユニット2 文献の活用 図書館の使い方を知り、文献・資料の集める（文献検索の方法）。 1) 図書館の使用方法
4	中島富有子、晴佐久悟、得能智武、荒川満枝	2) コンピューターを使用して、文献・資料の集め方 について実施する。
5	中島富有子、晴佐久悟、得能智武、荒川満枝	ユニット3 アサーション 1) アサーションの必要性について学ぶ。
6	中島富有子、晴佐久悟、得能智武、荒川満枝	2) アサーション方法について理解する。
7	中島富有子、晴佐久悟、得能智武、荒川満枝、庄山茂子	ユニット4 キャリアデザイン 1) 自分のキャリアデザインについて考え、4年間の学習をイメージする。
8	中島富有子、晴佐久悟、得能智武、荒川満枝、松尾圭子	2) 自分のキャリアデザインについて考え、4年間の学習をイメージする。
9	中島富有子、晴佐久悟、得能智武、荒川満枝	ユニット5 文章の書き方 1) 文章の書き方（文章の原理・原則）について理解する。
10	中島富有子、晴佐久悟、得能智武、荒川満枝	2) 文献・資料を活用し文章を書ける。
11	中島富有子、晴佐久悟、得能智武、荒川満枝	ユニット6 効果的なカンファレンス 1) 自分の意見を発表する方法を理解する。
12	中島富有子、晴佐久悟、得能智武、荒川満枝	2) 集団の中で、発表することができる。
13	中島富有子、晴佐久悟、得能智武、荒川満枝	3) 効果的なカンファレンスの実際を見学する。 4) グループワークによるカンファレンス を行う。
14	中島富有子、晴佐久悟、得能智武、荒川満枝	ユニット7 レポート作成 カンファレンス結果、文献を活用しレポートの書き方を学ぶ。
15	中島富有子、晴佐久悟、得能智武、荒川満枝	ユニット8 授業を通して作成したポートフォリオによって、学びの振り返りができ、今後に生かす方法がわかる。

《基礎分野 思考表現力》

科目名	英語コミュニケーション（基礎）			科目コード	DN111010
評価責任者	学生部長 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	15回
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。 -2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。 -7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。			
<b>授業の目的とねらい</b>					
「国際的な異文化交流」を図るために、英語コミュニケーション・スキルの基礎となる「聞く力」、「伝える力」、「読む力」の習得を目的とする。教材には日常生活や社会人として役に立つものを取り上げ、基本的な語彙、文法・構文等を復習しつつ、それらを総合的に活用して、比較的易しい英文の読み書きや日常会話に応用できる慣用表現を習得する。					
<b>到達目標</b>					
全体の到達目標： 英語コミュニケーション・スキルの基礎となる「聞く力」、「伝える力」、「読む力」を身に付ける。					
知識： 日常生活の基本的な英語表現を記述できる。					
態度・技能形成： 日常生活の基本的な英語表現を正確に読み取り、聞き取り、理解した上で（英語および日本語で）伝えることができる。					
<b>準備学修</b>					
テキストや配布資料をもとに予習・復習をする。予習・復習に必要な時間は全体で 15 時間とする。					
<b>成績評価基準</b>					
受講態度等：積極性、会話力（10%～20%）、中間テストおよび定期試験：英文の理解力、英語表現力（80%～90%）として総合100点で評価					
<b>課題等に対するフィードバック</b>					
課題は特に予定していない。					
<b>教科書・参考書など</b>					
（教科書） 高田智子他「Say It Now! Grammar for Communication 話す・伝える英文法」金星堂					
（参考書） 英和辞典、和英辞典（出版社等は問わない）					

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット1 I Commute by Train 1)日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2)エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3)コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。
2	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット2 What Are You Going to Do This Weekend? 1)日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2)エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3)コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。
3	壬生正博、ニールセン・ピーター	ユニット3 Have You Ever Volunteered? 1)日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2)エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3)コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。
4	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット4 Is There a Bank Near Here? 1)日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2)エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3)コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。
5	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット5 Could I Join Your Class? 1)日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2)エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3)コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。
6	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット6 You Should Apply for the Program 1)日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2)エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3)コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。
7	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット7 What Do the Plans Includes? 1)日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2)エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3)コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。
8	岡島勇太、ニールセン・ピーター	中間テスト, etc. 1)日常生活の基本的な英語表現を復習する。 2) 中間テストを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3)コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。
9	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット8 My New Apartment Is Safer Than My Old One 1)日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2)エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3)コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。
10	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット9 Typing Is Easy for Me! 1)日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2)エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3)コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。
11	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット10 I Have Many Things to Learn 1)日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2)エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3)コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。
12	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット11 If I Travel Abroad, I'll Take a Group Tour 1)日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2)エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3)コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。
13	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット12 Osamu Tezuka Is Admired by Many People 1)日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2)エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3)コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。
14	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット13 Here Is a Book Showing Various Recipes? 1)日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2)エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3)コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。
15	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット14 There Is a Candidate Who Want to Support 1)日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2)エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3)コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。

《基礎分野 人間の生活と社会》

科目名	人間の成長と発達			科目コード	DN111200
評価責任者	学生部長 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。 -2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。			

**授業の目的とねらい**

この科目では、「人間とは誕生から死まで生涯をかけて発達する存在である」ことを前提として、誕生から、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期に至るまでの発達を包括的に見ていく「生涯発達」の視点を持ち、看護専門職として様々な発達段階にある対象者を包括的に理解する視点を養うことを目指す。  
 本科目の学修成果は、主に筆記試験、授業態度・課題内容で確認する。

(実務経験を生かした教育内容)

臨床医や看護師の立場から、誕生から、乳幼児、児童期、青年期、成人期、老年期に至るまでのヒトのライフサイクルの視点で、様々な発達段階にある対象者の特徴や主な健康問題を包括的に教授する。

**到達目標**

1. 全体像の理解 (知識)
  - 1) 人間の発達および課題について説明することができる。
  - 2) 家族としての成長と発達課題について説明することができる。
  - 3) 育児と子育て支援について説明することができる。
  - 4) ワークライフバランスについて説明することができる。
  - 5) 生殖医療技術の発達と新たな家族関係について説明することができる。
  - 6) ドメスティック・バイオレンスについて説明することができる。
2. 態度形成 (態度)
  - 1) 人間の発達を学ぶ積極的な学修態度を養う。
  - 2) 講義後は、講義中の指定した教科書の項目や図を中心に、講義内容を復習する。
3. スキル形成 (技能)
  - 1) 人間の発達に関連する統計情報が示す意味を読み取ることができる。
  - 2) 人間の発達における事例や話題を基に、課題探求力を身につけることができる。
  - 3) 与えられた課題に対し、適切な引用文献を用い、自分の考えや資料からの引用を要約し、レポートを作成することができる。

**準備学修**

講義前にシラバスの学修項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目(予習の項目)に目を通しておくこと。講義後は、講義中の指定した教科書の項目や図を中心に、講義内容を復習すること。  
 予習・復習に必要な時間は全体で30時間とする。

**成績評価基準**

筆記試験(80点)、授業態度・課題内容(20点)など総合して評価する。授業に対するコメントなど、提出物の期限が守れなかった場合は減点対象とする。

**課題等に対するフィードバック**

レポートなどの提出物は評価後返却し解説を行う。

**教科書・参考書など**

教科書 なし(資料配布)

**参考書**

- 中野綾美他 著 『ナーシング・グラフィカ 小児看護学(1) 小児の発達と看護』メディカ出版  
 出口禎子、鷹野朋実他 著 『ナーシング・グラフィカ 精神看護学(1): 情緒発達と精神看護の基本』メディカ出版  
 水田祥代・窪田恵子 監修 『看護で教える最新の口腔ケア 授業・演習・臨床・在宅現場でも、すぐに使える!』大道学館出版部  
 竹下研三 著 『人間発達学』 中央法規  
 服部祥子 著 『生涯人間発達論』 医学書院  
 上田礼子 著 『生涯人間発達学』 三輪書店

**《授業計画》**

回	担当教員名	学修内容
1	岡田賢司	ユニット1 小児期における成長・発達(1) ライフサイクルにおける出生から乳児期の特徴を知り、この時期の身体的発育および精神的発達について学ぶ。
2	岡田賢司	ユニット1 小児期における成長・発達(2) ライフサイクルにおける幼児期の特徴を知り、この時期の身体的発育および精神的発達について学ぶ。
3	岡田賢司	ユニット1 小児期における成長・発達(3) 1) ライフサイクルにおける児童期から青年期の特徴を知り、この時期の身体的発育および精神的発達について学ぶ。 2) 生殖医療技術の発達と新たな家族関係について学ぶ。
4	原やよい	ユニット2 成人期における発達課題(1) ライフサイクルにおける成人期の発達を知り、社会的側面と精神的特性、心理的課題について学ぶ(ワークライフバランスを含む)。
5	原やよい	ユニット2 成人期における発達課題(2) ライフサイクルにおける家族としての成長と発達課題について学ぶ。 1) 家族としての成長と発達課題 2) 育児と子育て支援
6	中島富有子	ユニット2 成人期における発達課題(3) ドメスティック・バイオレンスについて学ぶ。
7	町島希美絵	ユニット3 老年期における発達課題(1) ライフサイクルにおける老年期の特徴を知り、老年期の身体的特性について学ぶ。
8	町島希美絵	ユニット3 老年期における発達課題(2) 老年期における社会的側面と精神的特性、心理的課題について学ぶ。



《基礎分野 人間の生活と社会》

科目名	well-being			科目コード	DN111220
評価責任者	荒川 満枝 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。</li> <li>-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。</li> <li>-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。</li> <li>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。</li> <li>-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。</li> <li>-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。</li> <li>-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。</li> </ul>			
<b>授業の目的とねらい</b>					
<p>授業のねらい</p> <p>看護の対象者にとって最適な生活（well-being）とは何かを考えるための導入科目として1年次前期に配置する。健康に関する基本的な概念を学修し、人間の成長発達段階やライフサイクルの違いによる対象者の健康観の違いや多様な価値観をもつ看護の対象者にとって、最適な生活（well-being）とは何かを考えるための基礎知識を学修する。</p> <p>実務経験を生かした教育内容</p> <p>大学附属病院等での看護実践の経験を活かし、well-beingを探求する上で必要な人間の多様性と人間の尊厳について具体的な事例を通して教授する。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>1. 全体像の理解 知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 人間の生命、尊厳、権利を尊重することの意味について説明できる。</li> <li>2) 健康の定義と健康の捉え方の推移と健康指標の変化について説明できる。</li> <li>3) well-being とQOLの概念について説明できる。</li> <li>4) 人間の多様な価値観とwell-beingの関連について説明できる。</li> </ul> <p>2. 態度形成 態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 人間の多様な価値観やwell-beingについて探求するため文献等からの情報を得ようとする。</li> <li>2) 対象者のwell-beingについて、自身の考えを表現し、他者とのディスカッションによって自身の考えを発展させることができる。</li> </ul> <p>3. 技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 対象者のwell-beingについて考えを深めレポートにまとめることができる。</li> <li>2) well-beingに関する課題について、ディスカッションし発表ができる。</li> </ul>					
<b>準備学修</b>					
<p>講義前にシラバスで予習内容を確認し、前課題に取り組んでおく。また、well-beingに影響する健康・経済・憲法（基本的人権）・幸福感など、学習課題に関する資料を入手し、授業内容の理解に活用する。</p> <p>予習・復習に必要な時間は、全体で20時間である。</p>					
<b>成績評価基準</b>					
<p>筆記試験（60点）、課題レポート（40点）、授業態度など総合して評価を行う。</p> <p>授業態度には、授業に臨む姿勢、グループ討議などのディスカッションが含まれる。</p>					
<b>課題等に対するフィードバック</b>					
<p>課題等に関するフィードバックは、発表および提出された課題レポートへのコメント等、授業の中で行う。</p>					
<b>教科書・参考書など</b>					
<p>教科書：特に指定しない。資料を準備する。</p> <p>参考書：茂野香おる・長谷川万希子他 著 『系統看護学講座専門分野 基礎看護学（1）看護学概論』医学書院          小山真理子編集 『看護学基礎テキスト 看護の対象』日本看護協会出版会          V.ヘンダーソン、湯楨ます他訳 『看護の基本となるもの』 日本看護協会出版会</p>					

**《授業計画》**

回	担当教員名	学修内容
1	荒川満枝	ユニット1 ガイダンス「well-being」の授業概要、教育課程における位置づけ well-beingの定義についての問題提起をし、学びを開始する。
2	荒川満枝	ユニット2 社会の変遷と健康観の変化 健康の捉え方の推移と健康指標の変化について学ぶ。
3	荒川満枝	ユニット3 幸福感 幸福感について考察し、生活の質（Quality of Life ; QOL）に影響する因子について学ぶ。
4	荒川満枝	ユニット4 多様性を認める社会、人が生きる社会、well-beingの評価1 現在の社会状況とwell-beingに関する様々な考え方や視点を踏まえて、QOLの概念との関係や、評価方法について学ぶ。
5	荒川満枝	ユニット4 多様性を認める社会、人が生きる社会、well-beingの評価2 社会における「well-being」の実践例
6	荒川満枝	ユニット5 人間の成長・発達1 人体の生命体としての価値や尊厳、成長と発達の概要を学ぶ。
7	荒川満枝	ユニット5 人間の成長・発達2 人間の成長・発達段階や心身の適応と不応の関連について学ぶ。 各発達段階のwell-beingに影響する心理社会的要因について学ぶ 大学生や高齢者のwell-beingに影響する心理社会的要因について学ぶ。
8	荒川満枝	ユニット6 人間の多様な価値観とwell-beingを実現するための看護の役割 看護の対象者のwell-beingを高めるための方策について考える。

《基礎分野 人間の生活と社会》

科目名	健康科学			科目コード	DN112225
評価責任者	学生部長 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。 -2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。 -3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。			
<b>授業の目的とねらい</b>					
健康や身体活動およびスポーツに関する基礎知識を理解するとともに、自己の健康について関心を持ち、健康づくりについて考えることを目的とする。具体的には身体活動・スポーツの意義、発育発達、加齢に伴う体力・身体機能の変化、健康づくりのための効果的な運動、睡眠と健康との関連、食生活と身体活動、健康と栄養などについて、知識を基にして体験を通して学ぶ。また、創造性・協調性・多様性など、円滑なコミュニケーションに必要な方法についてスポーツをとおして実践的に理解し身に付ける。					
<b>到達目標</b>					
1. 全体像の理解 知識	1) 健康や身体活動およびスポーツに関する基礎知識を理解する。				
2. 態度形成 態度	1) 学生は講義に興味を持ち積極的に参加することができる。 2) 演習では挨拶を行い、時間を守り、他者と協力しながら楽しむことができる。				
3. 技能	1) この演習を通じて、スポーツ技術およびスポーツを楽しむ態度を身に付ける。 2) この演習を通じて、ウォーミングアップ・クーリングダウンの知識と技術を身に付ける。 3) QOL と健康の関係について理解し説明できる。 4) 疾病構造の変化、生活習慣病の予防と対策について理解し説明できる。 5) 従来健康施策、今後の健康づくり施策について理解し説明できる。 6) 栄養と運動、睡眠および日常的な健康行動について理解し説明できる。 7) 発育発達・加齢・性差と健康について理解し説明できる。 8) 健康の定義から見た心の健康について理解し説明できる。 9) 疫学的視点、心理・社会的視点について理解し説明できる。				
<b>準備学修</b>					
授業で配布するプリントを活用しての予習・復習や、課題準備・作成時間を含めて合計60時間とする。					
<b>成績評価基準</b>					
参加態度を含む平常点（30点）、小テスト、課題及び実技試験（70点）計100点 課題レポート等については、学習量および理解度で判定する。					
<b>課題等に対するフィードバック</b>					
授業の中で解説、講評する。					
<b>教科書・参考書など</b>					
教科書： なし。講義中に資料を配布する。					
参考書： 九州大学健康科学センター編『実習で学ぶ健康・運動・スポーツの科学』大修館書店 (財)健康体力づくり事業財団『健康運動実践指導者養成テキスト』(財)健康づくり事業財団					

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	町田由紀子	ユニット1：オリエンテーション 健康とは健康づくりの知識と技術
2	町田由紀子	ユニット2：健康とQOL ウエルネスと健康観
3	町田由紀子	ユニット3：健康とQOL 健康づくりの基礎 コミュニケーション
4	町田由紀子	ユニット4：現代の健康課題（生活習慣病）と現代社会の健康政策（近年の運動指針） 疾病構造の変化、生活習慣病の予防と対策、身体活動による健康づくりエクササイズガイド
5	町田由紀子	ユニット5：健康と栄養 食事日本人の食事摂取基準
6	町田由紀子	ユニット6：運動と発育発達・老化 子どもの体力の現状と対策 加齢と健康づくり 加齢に伴う身体機能の変化と運動
7	町田由紀子	ユニット7：身近な健康問題 喫煙・睡眠・女性の健康と運動 ケーススタディ減量プログラム
8	町田由紀子	ユニット8：健康づくりの知識と技術 健康づくりに必要な知識と技術（ジョギングウォーキング）
9	町田由紀子	ユニット8：健康づくりの知識と技術 健康づくりに必要な知識と技術（リラクゼーション・コミュニケーションワーク） からだ気づき・からだづくり
10	町田由紀子	ユニット8：スポーツ全般の知識と技術 レクリエーションスポーツ・ウォーミングアップ・クーリングダウンの知識と技術
11	町田由紀子	ユニット9：スポーツ全般の知識と技術 レクリエーションスポーツ・ウォーミングアップ・クーリングダウンの知識と技術
12	町田由紀子	ユニット9：スポーツ全般の知識と技術 スポーツ技術とウォーミングアップ・クーリングダウンの知識と技術
13	町田由紀子	ユニット9：スポーツ全般の知識と技術 スポーツ技術とウォーミングアップ・クーリングダウンの知識と技術
14	町田由紀子	ユニット9：スポーツ全般の知識と技術 スポーツ技術とウォーミングアップ・クーリングダウンの知識と技術
15	町田由紀子	ユニット9：スポーツ全般の知識と技術 スポーツ技術とウォーミングアップ・クーリングダウンの知識と技術

《基礎分野 人間の生活と社会》

科目名	まちづくり概論			科目コード	DN112195
評価責任者	学生部長 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。 -2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。 -3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。			
<b>授業の目的とねらい</b>					
「まちづくり」における基礎的知識および姿勢を理解するとともに、日々の暮らしの中で生じる地域福祉・医療、地域コミュニティの課題を発見し、多様な主体と協働しながら解決していくための方法についてグループワークや具体例の考察等を通して学修する。					
<b>到達目標</b>					
全体の到達目標 「まちづくり」における基礎的知識および課題解決の方法を理解するとともに社会的孤立を解消する方法について考える。					
知識 1. グループワークを通して、「まちづくり」とは何かを体感、理解し、「まちづくり」の多様な観点について述べることができる。 2. 「まちづくり」において大切な視点および姿勢を事例を通して理解し、述べるができる。 3. 一般的なまちづくり概念における歴史的施行を学び、概念の特殊性を理解し、述べるができる。 4. 「まちづくり」を実践していく上で具体的な課題解決の方法、調査と会議の技法を理解し、述べるができる。					
態度 5. 「まちづくり」の中で近年課題となっている社会的孤立の概要について考えることができる。					
<b>準備学修</b>					
予習・復習に必要な時間は全体で 30 時間とする。					
<b>成績評価基準</b>					
出席状況（10%）、講義における発言・態度（10%）、講義時の小レポート（30%）、最終レポート（50%）。 なお、課題未提出の場合は評価の対象外とする。					
<b>課題等に対するフィードバック</b>					
課題は、グループワークディスカッションで、適宜フィードバックする。					
<b>教科書・参考書など</b>					
（教科書）特になし （参考書）講義時に適宜示す					

**《授業計画》**

回	担当教員名	学修内容
1	田北雅裕	「まちづくり」とは何か 「まちづくり」の多様な観点
2	田北雅裕	多様な「まちづくり」概念において、大切にすべき視点と姿勢
3	田北雅裕	多様な「まちづくり」概念において、大切にすべき視点と姿勢
4	田北雅裕	「まちづくり」概念の特殊性について
5	田北雅裕	問題解決を目的とした「まちづくり」の技法のポイント
6	田北雅裕	「まちづくり」の実践において活用できる調査のポイント 「まちづくり」の実践において活用できる会議のポイント
7	田北雅裕	「社会的孤立」とは何か 「社会的孤立」がなぜ生じているのか
8	田北雅裕	「社会的孤立」の改善のために必要な視点 「社会的孤立」の解消のための具体的な実践について

《基礎分野 人間の生活と社会》

科目名	社会福祉概論			科目コード	DN112230
評価責任者	学生部長 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。 -3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。 -4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。 -5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。			

**授業の目的とねらい**

保健・医療・福祉サービスの受け手である市民が、正確でわかりやすい情報を得られるための戦略的なコミュニケーション・デザイン技術やこれからの地域共生社会に必要なソーシャルワークの技術について、学修する。

**到達目標**

全体の到達目標

地域共生社会の基礎的な理解を基に、保健・医療・福祉サービスにおけるコミュニケーション・デザインの必要性を知り、広報やヘルスプロモーション、ソーシャルワーク技術の実践との関係を考える。

- 知識
1. 地域共生社会の基礎について、説明できる。
  2. 地域共生社会における課題解決の実践の中で、なぜコミュニケーション・デザインが必要なのか説明できる。
  3. コミュニケーション・デザインの基礎について、説明できる。
  4. 保健・医療・福祉サービスにおけるコミュニケーション・デザインのニーズを社会的孤立の観点から説明できる。
  5. コミュニケーション・デザインの表現技術の基礎（書体、色、レイアウト等）を説明できる。
  6. 地域共生社会において必要とされているソーシャルワーク技術の特徴について説明できる。
  7. 保健・医療・福祉サービスにおける広報およびヘルスプロモーションの理論を説明できる。

態度・技能形成

8. 保健・医療・福祉サービスにおける広報およびヘルスプロモーションの具体的実践について知り考えることができる。

**準備学修**

配布資料をもとに予習・復習をすること。予習・復習に必要な時間は全体で29時間とする。

**成績評価基準**

講義の参加状況、積極性(10%)、講義における発言・態度が適切であるか、(10%)、講義時の小レポートの学習量と的確性(30%)、最終レポート(50%)

**課題等に対するフィードバック**

グループワークディスカッションで適宜フィードバックする。

**教科書・参考書など**

- (教科書) 特になし
- (参考書) 講義時に適宜示す

**《授業計画》**

回	担当教員名	学修内容
1	田北雅裕	地域共生社会の基礎知識
2	田北雅裕	コミュニケーション・デザインの知識や技術が専門家以外でも必要になってきた理由
3	田北雅裕	保健・医療・福祉サービスにおけるコミュニケーション・デザインの実践
4	田北雅裕	保健・医療・福祉サービスにおけるコミュニケーション・デザインの実践
5	田北雅裕	コミュニケーション・デザインにおける表現技術の基礎（書体、色、レイアウト等）の概要
6	田北雅裕	ソーシャルワーク技術の基礎知識と一般的理論
7	田北雅裕	保健・医療・福祉サービスにおける広報およびヘルスプロモーションの必要性および一般的理論
8	田北雅裕	地域共生社会に必要とされているソーシャルワーク技術の実践



《基礎分野 人間の生活と社会》

科目名	国際協力			科目コード	DN112235
評価責任者	宮坂 啓子 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助の人間関係を構築できる。 -2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。 -3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。 -4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。 -7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。			
<b>授業の目的とねらい</b>					
国際社会全体の平和と安定、発展のために人々を支援する国際協力について看護の視点で捉えるとともに、国際的協力の取り組みについて理解する。また、途上国における国際協力の現状を知り、途上国での国際協力活動と看護について学び、課題を知る。また、自分たちができる国際協力についてグループで調べ、ディスカッションして、発表することで、幅広い意味での国際協力について考える機会となると考える。					
実務経験を生かした教育内容 ニュージーランドで医療通訳者として働いた経験を基に、日本の看護と比較検討し、様々な視点で看護師が行う国際協力や看護活動について教授する。					
<b>到達目標</b>					
1. 知識 保健医療分野で活躍する国際協力・国際救援について説明できる。 人間の安全保障と健康、開発途上国の健康政策と対策、MDGs とSDGsの言葉に意味を考え、説明できる。 開発途上国と看護（1) 貧困と健康2) 水と保険衛生3) 子どもの健康4) 女性の健康5) 感染症など）について説明できる。 世界における災害と難民・国内避難民の現状と国際的な緊急支援・協力・役割について理解する。					
2. 態度 国内だけでなく、国際的な視野を持ち積極的に参加する。 災害時の支援や協力について考えることができる。					
3. 技術1. 全体像の理解 世界を取り巻く情勢を理解し、国際的協力の取り組みについて調べ・発表することができる。 知識・技術の習得で国際看護活動における情報収集とアセスメントから1) 国際看護活動の情報収集の方法、2) 医療情報をどのように提供するか（DVD）、3) 国際看護活動における問題点現在の医療における国際情勢について、グループでのディベートやディスカッションを通して、国際協力と看護について学ぶ意義について考えることができる。 国際的に理解すべき様々な問題と自分たちができる国際協力について、グループでまとめる。					
<b>準備学修</b>					
事前学習は各回3～4時間(全体で30時間程度)。					
国際的に使用する用語やその意味について事前に調べる。例えばSDGs、世界の保健医療システム、リプロダクティブヘルス・ケアなど、日常で良く耳にする言葉も意味を理解すると講義内容をより深く理解できると考える。					
<b>成績評価基準</b>					
・グループでのプレゼンテーション（発表）50%      ・グループワークでのディスカッション、ディベートなどの参加度30% ・課題レポート・リアクションペーパー20%					
<b>課題等に対するフィードバック</b>					
課題レポートなどは、評価後に解説する。					
<b>教科書・参考書など</b>					
(教科書) なし					
(参考書) 適宜指示する					

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	宮坂啓子	国際救援・保健医療分野で活躍する国際協力について 1) 国際協力・国際救援について説明し考えることができる。 2) 文化を考慮した看護の視点について考えることができる。
2	宮坂啓子	保健医療分野の開発理念の変遷 1) 保険医療分野の開発理念の変遷について述べるができる。 2) 世界の健康問題の現状考えることができ、説明できる。
3	宮坂啓子	国際看護活動における情報収集とアセスメント 1) 国際看護活動の情報収集の方法について理解できる。 2) 医療情報をどのように提供するか、DVDをみてディベートできる。 3) 国際看護活動における問題点について述べるができる。
4	宮坂啓子	開発協力の概要と健康、保健医療の概念と看護 (DVD) 1) 人間の安全保障と健康について、考えることができる。 2) 開発途上国の健康政策と対策をみんなでディベートできる。 3) MDGs とSDGsの違いについて述べるができる。
5	宮坂啓子	開発途上国と看護 1) 貧困と健康、2) 水と保険衛生、3) 子どもの健康 4) 女性の健康、5) 感染症など問題点を抽出できる。
6	宮坂啓子	世界における災害と難民・国内避難民の現状 1) 世界における災害と難民について、考えることができる。 2) 国際救援の課題を述べるができる。 3) 国際的な緊急支援・協力・役割について述べるができる。
7	宮坂啓子	国際的に理解すべき様々な問題と自分たちができる国際協力について、グループで発表内容をまとめる。 以下の項目に関して国際協力に必要な支援について理解できる。 1) 開発と経済 2) 紛争と健康 3) 栄養 4) リプロダクティブヘルス 5) 健康教育とヘルスシステム他について
8	宮坂啓子	国際医療・福祉における看護の役割と国際協力について、「自分たちができる国際協力」についてのまとめを発表する。 1) 国際・看護・協力など抽出キーワードを基に作成したパワーポイントを、全員で担当箇所を発表し、これからの国際協力の課題と展望についてディスカッションして、まとめを行う。

《基礎分野 人間関係と態度》

科目名	社会規範論			科目コード	DN111300
評価責任者	宮園 真美 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。			
<b>授業の目的とねらい</b>					
<p>看護職が専門職としてより質の高い看護を提供するためには、深い知識と確実な看護技術だけでなく、高い倫理性が不可欠である。この科目は、倫理学の基礎的な学習を通じ、自己に関する規範（私はどのように生きるべきか）と社会的な規範（私たちはどのように生きるべきか）に関する洞察を深め、自己管理能力を育成するとともに、社会規範に関する意識を向上させる基礎的知識を養うことを目的とする。自己管理能力では、時間管理、健康管理、モチベーション管理、ストレス管理などが含まれ、社会人として必要な能力であることを理解し、その方法を学ぶ。社会人の一員として身につけるべき道徳や規範を理解し、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動するために必要な知識として、倫理綱領や宣言などの成り立ちやそれぞれの事例を通して、自分自身で考えを深めながら学修をすすめる。</p> <p>実務経験を生かした教育内容          公立病院や大学付属病院における臨床経験を活かし、様々な倫理的場面や社会的規範を遵守する必要性のある場面での看護実践方法や思考方法を教授する。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>全体の到達目標：倫理学の基礎的な学習を通じ、私はどのように生きるべきか、私たちはどのように生きるべきか、に関する洞察を深め、社会規範に関する意識が向上する。</p> <p>知識</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護と倫理の関係について尊厳との関連から説明できる。</li> <li>2. 生命倫理学と医療倫理学の関係性について説明できる。</li> <li>3. 医療・看護における倫理原則について説明できる。</li> <li>4. 医療における平等・無差別と公平・公正について正義原則の観点から説明できる。</li> <li>5. 尊厳死について「患者の意思の尊重」の観点から説明できる。</li> </ol> <p>態度、技能形成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 当人の同意 モデルから 関係者の合意 モデルへの変化について考察する。</li> <li>7. 患者の権利と自己決定権について、リスボン宣言から考察する。</li> <li>8. 臨床倫理学と看護倫理学、その他の医療系倫理学との関係について考察する</li> <li>9. 社会人としての自己管理（時間・健康管理、モチベーション・ストレス管理）の重要性について考察する。</li> <li>10. 社会人として「私はどのように生きるべきか、私たちはどのように生きるべきか」考察する。</li> </ol>					
<b>準備学修</b>					
配布資料をもとに予習・復習をする。予習・復習に必要な時間は全体で29 時間以上とする。					
<b>成績評価基準</b>					
<p>記述試験 50点（永嶋先生ご担当分）          記述試験（90％）〔理解度、自分の言葉で正しく説明できているか等で判定する。〕          平常評価（10％）〔授業出席状況と、私語や居眠りしないなどの受講態度とによる〕</p> <p>小論文 50点（青木、中島、宮園担当分）</p>					
<b>課題等に対するフィードバック</b>					
レポート等の課題を課した場合は、学生にフィードバックします。					
<b>教科書・参考書など</b>					
<p>（教科書）          使用せず。授業においてプリントが詳細資料として配布される。</p> <p>（参考書）          参考文献は講義中に紹介される。</p>					

**《授業計画》**

回	担当教員名	学修内容
1	青木久恵	社会人としての自己管理（時間管理、健康管理）
2	中島富有子	社会人としての自己管理（モチベーション管理、ストレス管理）
3	宮園真美	社会人としての自己管理（組織の中の社会的規範と自己のあり方）
4	永嶋哲也	尊厳と基本的人権：人の価値に関する倫理学
5	永嶋哲也	生命倫理学の誕生：人命の不可侵性からの転換
6	永嶋哲也	生命倫理の四原則と看護実践の倫理原則
7	永嶋哲也	患者の権利：リスボン宣言と自己決定権
8	青木久恵、中島富有子、宮園真美	社会人として「私はどのように生きるべきか、私たちはどのように生きるべきか」に関する学びのまとめ

《基礎分野 人間関係と態度》

科目名	人間の生と死			科目コード	DN111305
評価責任者	学生部長 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。			

**授業の目的とねらい**

1年生の前期にあるこの科目は、看護を学ぶ学生として人間の生と死について考え、自らの生命観や死生観を見つめ直し、医療・福祉における様々な倫理的問題から、人間のいのちに関する倫理的な感性を高めることを目標とします。この科目では、テーマに沿った課題レポートを書くことやそれをグループでディスカッションし発表することによって様々な視点や考え方を知り、倫理的に深く考える方法で講義をすすめます。医療・福祉における様々な倫理的問題を取り扱うため、人間のいのちに関連する新聞記事やwebでの情報、関連書籍を自ら読み、いのちに対する自分なりの考えを持ち、講義に臨んでいただくことが望ましいです。

**到達目標**

全体の到達目標：  
人間の生と死の尊厳と尊さについて理解し、自らの考えを深めるとともに、現代の医療・福祉におけるいのちに関連する諸問題とその論点について理解し、自分が適切だと考える判断を下し、その判断理由を述べるができる。

知識：  
1. スピリチュアルケアについて説明できる。  
2. 人間の生と死の尊厳と尊さについて自分の言葉で説明できる。

態度：  
いのちの始まりに関する諸問題とその論点について理解し、自分が適切だと考える判断を下し、その判断理由を述べるができる。

技能形成：  
医療・福祉におけるいのちの尊さについて倫理的な考えを持つことができる。

**準備学修**

講義で取り扱う人間のいのちに関連する諸課題についてシラバスで確認し、これら諸課題に対する新聞記事やwebでの情報、関連書籍による情報を集めて授業に臨む。そのための時間は、講義全体に対し30時間程度とする。また、講義後に自分の意見や他者の意見、講義で学んだ内容を自分なりに整理し、ノートを作る。

**成績評価基準**

各回で提出するレポート【84点】（1回目7点、2回目～8回目各11点）、出席状況・ディスカッション時の態度【16点】の総合100点で評価する。また、レポート内容は テーマに関する事前調査で分かったこと（事前準備）、 テーマに関する自分の考え（事前準備）、 テーマに関して再考したこと（授業中に記入）、 感想（授業中に記入）で構成されているが、特に の内容が充実していることが望ましい。また、レポートは毎回の講義終了時に提出とする。欠席時はクラスメイトから講義やディスカッションの内容を教えてもらい、仕上げた上で次回講義日に提出すること。

**課題等に対するフィードバック**

課題レポート等は、必要時コメントをつけ、適宜返却する。

**教科書・参考書など**

教科書  
なし（講義プリント使用）

参考書  
得丸定子 『いのち 教育 スピリチュアリティ』大正大学出版会 2009 年  
得丸定子 編著 『「いのち教育」をひもとく - 日本と世界』現代図書 2008 年

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	柴村馨	ユニット1：人間の尊厳と尊さについて ・授業ガイダンス ・スピリチュアルケアということ
2	柴村馨	ユニット2：いのちの始まりに関する課題 「出生前診断」 ・出生前診断における現状の課題を理解する ・講義と発表を聞き、自分の考えをまとめる
3	柴村馨	ユニット2：いのちの始まりに関する課題 「人工妊娠中絶」 ・人工妊娠中絶における現状の課題を理解する ・講義と発表を聞き、自分の考えをまとめる
4	柴村馨	ユニット2：いのちの始まりに関する課題 「代理母出産」 ・代理母出産における現状の課題を理解する ・講義と発表を聞き、自分の考えをまとめる
5	柴村馨	ユニット3：いのちの終わりに関する課題 「高齢社会における死とは」 ・高齢社会における死の現状と課題を理解する ・講義と発表を聞き、自分の考えをまとめる
6	柴村馨	ユニット3：いのちの終わりに関する課題 「安楽死と尊厳死」 ・安楽死と尊厳死についての課題を理解する ・講義と発表を聞き、自分の考えをまとめる
7	柴村馨	ユニット3：いのちの終わりに関する課題 「終末期医療」 ・終末期医療における現状の課題を理解する ・講義と発表を聞き、自分の考えをまとめる
8	柴村馨	ユニット4：医療・福祉における、いのちの尊さについて ・いのちを支えるということ ・いつも、誰に対しても、倫理的であるということ

《基礎分野 基礎学力》

科目名	看護のための生物学・化学			科目コード	DN104390
評価責任者	学生部長 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・自由科目	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-3 科学的根拠に基づき対象者の個別性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。			

**授業の目的とねらい**

看護師になるために必要な科学的基礎知識を習得するために、生物学および化学についての基本的項目を学ぶ。

【生物学】

生体を構成する細胞の構造と活動についての基本事項を習得する。

【化学】

生体に関連する物質の性質や化学反応についての基本事項を習得する。

授業は教科書、配布資料をもとにすすめる。

**到達目標**

全体としての到達目標：看護を实践する上で必要とされる生物学、化学の知識を修得する。

知識（生物学）

1. 細胞を構成する成分と細胞の構造を理解し、述べる（記述する）ことができる。
2. 食物の分解過程と物質代謝によるエネルギー産生を理解し、述べる（記述する）ことができる。
3. 遺伝子の発現、DNA複製、染色体分配を理解し、述べる（記述する）ことができる。
4. 病原体の感染と免疫の仕組みを理解し、述べる（記述する）ことができる。

知識（化学）

5. 原子の電子配置やイオンの種類を理解し、述べる（記述する）ことができる。
6. 物質と気体の体積や溶液の濃度との関係を理解し、述べる（記述する）ことができる。
7. 酸塩基平衡や浸透圧について理解し、述べる（記述する）ことができる。
8. 有機化合物の種類や生体高分子の構造を理解し、述べる（記述する）ことができる。

**準備学修**

配布資料をもとに講義要点を予習、復習する。毎回、3～4時間を予習・復習にあてる。

**成績評価基準**

定期試験 90%に受講態度10%を合わせて 100 点で評価する。

受講態度は主に出欠状況をもとに判断する。

**課題等に対するフィードバック**

講義中に演習問題を解答し解説する。試験結果を開示し質問に答える。

**教科書・参考書など**

（教科書）  
特に指定しない

（参考書）  
田村隆明著『大学 1 年生のなっとく！生物学』講談社  
高校生物基礎 / 高校生物で使用した教科書

**《授業計画》**

回	担当教員名	学修内容
1	飯森真人	1. 細胞の構成成分、細胞の構造（生物）
2	飯森真人	2. 物質の代謝とエネルギー産生（生物）
3	飯森真人	3. DNA と遺伝子発現（生物）
4	飯森真人	4. 病原体と免疫（生物）
5	谷口卓	5. 原子の構造とイオン（化学）
6	谷口卓	6. 物質と気体や水溶液との関係（化学）
7	谷口卓	7. 水溶液の性質（化学）
8	谷口卓	8. 生体を構成する有機化合物（化学）



《基礎分野 基礎学力》

科目名	看護のための物理学			科目コード	DN104400
評価責任者	青木 久恵 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・自由科目	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。			

**授業の目的とねらい**

物理学の概念・法則を理解し、物理学の科学的エビデンスに基づいた適切な看護行為の判断ができる力を育成する。

**到達目標**

本科目の内容は、高校レベルの物理学の学びなおしではなく、専門分野で学ぶ看護技術に関して物理学的な視点をもとに、人間の身体や医療機器の仕組みを理解し、効果的な力の使い方や適性かつ正確な看護技術について説明でき、場面において判断できる能力を身につけることを目標としている。

1. トルクを利用したいろいろな医療器具と適切な使用法を理解し、効率的な力の使い方が説明できる。
2. さまざまな圧力が人間に及ぼす影響について理解し、次のことを説明できる。

呼吸のメカニズム

陽圧と陰圧

酸素ポンペの仕組み

点滴静脈内注射の仕組みと適正に実施できるための条件

血圧測定技術が血圧値に及ぼす影響を理解し、正確に測定できるための方法について説明できる。

3. 物理的視点から人間の感覚機能について説明できる。
4. 体温を例に、ホメオスタシスについて説明できる。

看護師国家試験に出題される内容を含むため、自由科目ではあるが、不合格となった場合には再試験を受験し、合格レベルまで理解しておくことが望ましい。

看護師国家試験に出題される内容を含むため、自由科目ではあるが、不合格となった場合には再試験を受験し、合格レベルまで理解しておくことが望ましい。

**準備学修**

予習・復習に必要な時間は、全体で 30 時間以上とする。

講義前に下記の表中の単元について予習しておくこと、講義内容を理解しやすくなる。

**成績評価基準**

筆記試験 (80%)、課題レポートなどの平常点 (20%)

**課題等に対するフィードバック**

予習もしくは復習用課題 (ミニ宿題) を課し、解説を授業の中で行う。

**教科書・参考書など**

(教科書)

佐藤和良『看護学生のための物理学 第6版』医学書院

(参考書)

なし

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	都留寛治	ユニット1 1) 力の物体を移動させる能力と回転させる能力 2) 体位変換にトルクを利用させていることについて 3) てこの原理の人体中での応用 4) 重いものを持つときの5つの基本
2	都留寛治	ユニット2 1) 効率的なベッド上の患者を起こす方法 2) 看護ボディメカニクスの物理的重点事項
3	都留寛治	ユニット3 1) 力と圧力の違い 2) さまざまな圧力単位があることへの理解および別の圧力単位への換算 3) 看護動作において圧力の理解が必要な例(穿刺や褥瘡等) 4) 気圧が人間に与える影響 5) 入浴とベッドの圧力が人間に与える影響
4	都留寛治	ユニット4 1) ゲージ圧単位系と絶対圧単位系の違い 2) 吸引の仕組みについて、圧力バランスの観点 3) 胸腔ドレナージにおける圧力調整の意義 4) 看護技術における、サイフォンの原理の活用 5) ボイルの法則 6) 酸素ボンベ内の圧力と酸素残量との関係の計算
5	都留寛治	ユニット5 1) 点滴静脈内注射のセッティングにおける諸問題 2) 点滴静脈内注射の流量の調節に影響を及ぼす要因 3) 点滴の所要時間や滴下数の計算 4) 注射のバイアルの操作における圧力と薬液の変化
6	都留寛治	ユニット6 1) 心臓のポンプ機能と血液循環との関係 2) 血圧について 3) 高血圧の原因の物理学的な説明 4) 血圧測定の方法 5) 重力が血圧に及ぼす影響 6) 血圧計の仕組み
7	都留寛治	ユニット7 1) 感覚の対数化と閾値 2) 聴覚の大きさ、高さによる聞こえ方の違い 3) 算術目盛と対数目盛の違い 4) 薬物成分の血中濃度の時間経過による変化 5) キャッチしやすい感覚の条件 6) 視覚の環境への適応能力
8	都留寛治	ユニット8 1) 体温調節のための機能 2) 体温調節のための制御機能 3) 体温異常のメカニズム(発熱とうつ熱の違い) 4) 熱温存の仕組み

《基礎分野 基礎学力》

科目名	看護のための数学			科目コード	DN104395
評価責任者	青木 久恵 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・自由科目	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。			

**授業の目的とねらい**

(看護師国家試験に出る数学)  
看護を实践する上で必要とされる数学の知識を知り、活用できることを目的として、看護師国家試験の過去問題を解く。看護師国家試験に出てくる数式を必要とする各種問題を、原理を理解して解けるようにする。

**到達目標**

全体としての到達目標：看護を实践する上で必要とされる数学の知識を修得し、看護師国家試験を解けるようにする。

**知識**

1. 単位あたりの考え方を理解し、点滴の滴下量の計算などができる。医療に出て来る単位の意味を説明できる。
2. 濃度の意味を理解し説明できる。

**技術**

1. カロリー計算の基礎を学び、応用問題を解くことができる。
2. 濃度の意味を理解する。希釈の問題を解くことができる。
3. 比の関係から必要な薬量などを計算できる。また体格指数や肥満度を求めることができる。
4. 酸素ポンベの圧力から使用可能時間を割り出すことができる。

**技能形成**

1. 学んだ知識を使って、看護師国家試験を解くことができる。
2. 学んだ知識を確認し、確実に計算できる。

**準備学修**

講義前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、資料をもとに予習・復習をする。  
予習・復習に必要な時間は全体で30時間とする。

**成績評価基準**

定期試験 (100%)

**課題等に対するフィードバック**

講義中に演習問題を解答・解説を行う。適宜質問に回答する。

**教科書・参考書など**

(教科書)  
特に指定しない。講義において適宜プリントを配布する。

(参考書)  
講義の中で適宜紹介する。

**《授業計画》**

回	担当教員名	学修内容
1	宮崎宗親	ユニット1 単位あたりの量と点滴計算
2	宮崎宗親	ユニット2 点滴計算の応用と単位換算
3	宮崎宗親	ユニット3 薬液の問題
4	宮崎宗親	ユニット3 薬液の問題
5	宮崎宗親	ユニット4 酸素ポンベの残量計算
6	宮崎宗親	ユニット5 成人・小児看護
7	宮崎宗親	ユニット6・7 母性看護・応用
8	宮崎宗親	ユニット8 まとめ

《専門基礎分野 人体の構造と機能》

科目名	形態機能学（解剖）			科目コード	DN111401
評価責任者	荒川 満枝 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-3 科学的根拠に基づき対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。			

**授業の目的とねらい**

看護においては、対象となる人々の健康な身体構造・機能や疾病を理解するために正常な人体構造の理解が必要である。本科目では、正常人体構造の肉眼的および組織学的基本的知識を、身体の支持および運動の基本となる骨格系と筋系を中心として図解しながらポイントを示した資料を基に学修する。また血液およびリンパ液の流れを脈管の構造とあわせて学修する。

**到達目標**

全体の到達目標 解剖学を学ぶための基礎知識を基に、正常な人体構造の、骨格系・筋系の基本構造、循環器系の構造と血液の循環、細胞の構造と組織について理解できる。

- 知識
1. 解剖学を学ぶための基礎知識について要点を述べる（記述する）ことができる。
  2. 骨格系・筋系の基本構造について述べる（記述する）ことができる。
  3. 頭頸部の骨格・筋について述べる（記述する）ことができる。
  4. 体幹の骨格と筋について述べる（記述する）ことができる。
  5. 上肢の骨格と筋について述べる（記述する）ことができる。
  6. 下肢の骨格と筋について述べる（記述する）ことができる。
  7. 循環器系の構造と血液の循環について述べる（記述する）ことができる。
  8. 細胞の構造と組織について述べる（記述する）ことができる。

- 態度、技術形成
1. 疑問点について質問することができる。
  2. 看護への応用について考えることができる。

**準備学修**

講義前に学修目標および行動目標を確認理解し、予習の項目で指定された教科書の範囲を各自でまとめておくこと。また、講義中は聴講により得られた知識を記録すること。さらに講義後は予習において各自でまとめた知識と、聴講により得られた知識を体系化してまとめること。予習・復習に必要な時間は全体で15時間とする。

**成績評価基準**

筆記試験を総合 100 点で評価する。課題レポート等については、学習量と理解度で判定する。

**課題等に対するフィードバック**

課題レポート等は、評価後に返却し、評価基準の掲示を行う。

**教科書・参考書など**

- <教科書>  
坂井建雄 他『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学』医学書院
- <参考書>  
佐藤達夫 他『新版 からだの地図帳』講談社

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	畠山雄次	ユニット1 細胞と組織 細胞の構造と組織について学ぶ。
2	児玉淳	ユニット2 解剖学を学ぶための基礎知識について学ぶ。
3	児玉淳	ユニット3 骨格系・筋系 骨格系・筋系の基本構造について学ぶ。
4	児玉淳	ユニット3 骨格系・筋系 頭頸部の骨格・筋について学ぶ。
5	児玉淳	ユニット3 骨格系・筋系 体幹の骨格と筋について学ぶ。
6	児玉淳	ユニット3 骨格系・筋系 体幹の骨格と筋について学ぶ。
7	児玉淳	ユニット3 骨格系・筋系 上肢の骨格と筋について学ぶ。
8	児玉淳	ユニット3 骨格系・筋系 上肢の骨格と筋について学ぶ。
9	児玉淳	ユニット3 骨格系・筋系 下肢の骨格と筋について学ぶ。
10	児玉淳	ユニット3 骨格系・筋系 下肢の骨格と筋について学ぶ。
11	児玉淳	ユニット4 循環器系 循環器系の構造と血液の循環について学ぶ。
12	児玉淳	ユニット4 循環器系 循環器系の構造と血液の循環について学ぶ。
13	児玉淳	ユニット4 循環器系 循環器系の構造と血液の循環について学ぶ。
14	児玉淳	ユニット4 循環器系 循環器系の構造と血液の循環について学ぶ。
15	児玉淳	ユニット4 循環器系 循環器系の構造と血液の循環について学ぶ。

《専門基礎分野 人体の構造と機能》

科目名	形態機能学（生理）			科目コード	DN111405
評価責任者	学生部長 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。			

**授業の目的とねらい**

人体の生命活動のしくみを理解し、看護に必要なフィジカルアセスメントの基礎となる知識を養うために、細胞の基本的な構造と機能、筋、感覚器、中枢神経系や末梢神経系などの機能やそのメカニズムを学ぶ。授業は教科書、配布資料、講義ノートをもとにする。

**到達目標**

全体の到達目標：細胞、神経、筋、感覚器、中枢・末梢神経系、脳の高次機能に関する活動の仕組みを理解できる。

< 知識 >

1. 細胞の構造と機能について説明できる。
2. 神経細胞の構造と機能について説明できる。
3. 感覚器の種類と構造及び機能について説明できる。
4. 筋の構造と機能について説明できる。
5. 中枢神経と末梢神経の構成と機能について説明できる。
6. 脳の高次機能について説明できる。

< 態度 >

1. 疑問点について質問することができる。
2. 看護への応用について考えることができる。

**準備学修**

配布資料と講義ノートをもとに講義要点を復習する。教科書や参考書を読み、講義に関連する項目について理解を深める。全体の準備学習時間の目安は約15時間とする。

**成績評価基準**

中間試験（30%）と定期試験（70%）を合わせて100点で評価する。

**課題等に対するフィードバック**

試験の結果は試験終了後に開示し、質問があれば答える。

**教科書・参考書など**

< 教科書 >

坂井建雄 他著『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学』医学書院

< 参考書 >

多久和典子 他著『なるほどなっとく！ 解剖生理学』南山堂

**《授業計画》**

回	担当教員名	学修内容
1	藤田亜美	ユニット1 細胞の構造と機能
2	藤田亜美	ユニット2 ニューロンの構造と機能(1)
3	藤田亜美	ユニット2 ニューロンの構造と機能(2)
4	藤田亜美	ユニット3 筋の収縮(1)
5	藤田亜美	ユニット3 筋の収縮(2)
6	鍛冶屋浩	ユニット4 感覚器の構造と機能(1)
7	藤田亜美	ユニット4 感覚器の構造と機能(2)
8	藤田亜美	中間試験 1～7回の講義内容を復習する。
9	藤田亜美	ユニット4 感覚器の構造と機能(3)
10	藤田亜美	ユニット4 感覚器の構造と機能(4)
11	藤田亜美	ユニット5 神経系の構成と機能(1)
12	藤田亜美	ユニット5 神経系の構成と機能(2)
13	藤田亜美	ユニット5 神経系の構成と機能(3)
14	藤田亜美	ユニット5 神経系の構成と機能(4)
15	藤田亜美	ユニット6 脳の高次機能



科目名	公衆衛生学			科目コード	DN111500
評価責任者	晴佐久 悟 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。			
<b>授業の目的とねらい</b>					
個人、家族、集団の生活環境や生活行動と健康との関係およびヘルスプロモーション、公衆衛生の概念と活動について学び、基本的な公衆衛生について理解する。					
<b>到達目標</b>					
1.全体像の理解 知識 1) 公衆衛生の概念、公衆衛生の歴史、ヘルスプロモーション、プライマリヘルスケアについて説明できる 2) 公衆衛生の活動対象、公衆衛生の仕組みについて述べるができる。 2.態度形成 態度 1) 積極的にディスカッションへ参加できる。 3.スキル形成 1) 公衆衛生に関連する疫学、国際保健、および地域歯科保健についてレポートによる発表ができる。					
<b>準備学修</b>					
講義前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。 学生は課せられる課題や、その他学習活動に約29時間を費やすこと。 講義後は、教科書の図表を中心に、講義内容を復習すること。					
<b>成績評価基準</b>					
筆記試験（80%）、授業態度・課題内容（20%）とし、総合100点で評価する。 課題の締め切りに遅れた場合は評価シートに記載の通り減点されるので、締め切り日に注意する。 授業態度には、授業に臨む姿勢、プレゼンテーション、グループ討議などのディスカッションが含まれる。					
<b>課題等に対するフィードバック</b>					
評価後に返却し解説を行う。					
<b>教科書・参考書など</b>					
教科書： 神馬征峰他 著 『系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度』 医学書院 参考書： 標美奈子他 著 『標準保健師講座 公衆衛生看護学概論』 医学書院 小泉俊三他 著 『系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 健康支援と社会保障制度』 医学書院					

**《授業計画》**

回	担当教員名	学修内容
1	晴佐久悟	ユニット1公衆衛生の概念 1) 公衆衛生の概念、2) 公衆衛生の主な歴史、3) プライマリヘルスケア、4) ヘルスプロモーション、5) 公衆衛生における看護職の役割
2	晴佐久悟	ユニット2 疫学・保健統計 集団の健康を捉えるための手法である疫学・保健統計について理解し、1) 平均寿命、平均余命、健康寿命、2) 死亡率、死因、3) 健康指標の基礎資料となる人口、4) 疫学上の分析・対策の計画・実施
3	晴佐久悟	ユニット3 環境と健康 1) 地球温暖化、オゾン層破壊、環境汚染等の環境問題と健康の関係について説明できる 2) 水質・大気・土壌汚染等の環境汚染と健康の関係について説明できる 3) 室内・食品・廃棄物等の身のまわりの環境と健康の関係
4	晴佐久悟	ユニット4-1 感染症とその予防対策 1) 感染症とその予防の基礎知識 2) わが国の感染症予防対策 3) 院内感染とその予防
5	晴佐久悟	ユニット4-2 感染症とその予防対策 1) 公衆衛生上の重要な感染症
6	晴佐久悟	ユニット5国際保健 1) 地域における健康格差とその解消のための活動 2) 国際保健の共通目標 3) 国際保健に日本が果たす役割
7	晴佐久悟	ユニット6-1 保健活動と関連法規 1) 母子保健、2) 成人保健、3) 高齢者保健、4) 精神保健の活動内容
8	晴佐久悟	ユニット6-2 保健活動と関連法規 5) 歯科保健、6) 難病支援・障害者支援、7) 感染症対策の概要、8) 学校保健の概要、9) 産業保健、10) 健康危機管理と災害時における活動

《専門分野 基礎看護学》

科目名	看護学概論			科目コード	DN111601
評価責任者	青木 久恵 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。</li> <li>-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。</li> <li>-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。</li> <li>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。</li> <li>-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。</li> </ul>			
<b>授業の目的とねらい</b>					
<p>授業の目的とねらい</p> <p>1年生の前期にあるこの科目では、看護基礎教育の導入として、看護専門職の役割・機能を理解することで、看護学を学ぶ動機づけとなることを目的とする。看護の成立過程とその意義を学び、看護とは何かを考え、看護学の基盤となる「人間」、「環境」、「健康」、「看護」の概念を理論的に理解し、保健・医療・福祉分野における看護専門職として、人々の健康に資することにより最適な生活 (well-being) を支援する役割について学習する。</p> <p>実務経験を生かした教育内容</p> <p>大学附属病院等での成人および高齢者の急性期・回復期病棟における看護師としての実務経験を生かし、看護の対象となる人びとの理解や看護の役割と機能について具体的な事例をもとに教授する。また、看護職者の継続教育および地域包括ケア構築における推進委員の実務経験を生かし、看護職者の教育とキャリア開発および地域住民の健康増進に向けた新たに求められる看護職の役割について教授する。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>1.全体像の理解 知識</p> <p>看護基礎教育の導入として、看護専門職の役割・機能を理解し、看護とは何かに対する問いに対する自身の考えを表現できる。</p> <p>1)看護の定義・概念枠組みについて説明できる。2)看護の役割と機能について説明できる。3)看護の対象である生活者としての人間と健康の捉え方について説明できる。4)職業としての看護が確立した変遷について説明できる。5)看護の養成制度と看護職者の教育・キャリア開発について説明できる。6)看護サービスの提供のしくみについて説明できる。</p> <p>7)看護実践における倫理的問題について説明できる。8)国際看護活動について説明できる。9)災害時の看護について説明できる。10)看護専門職の要件について説明できる。11)看護における社会的課題について説明できる。</p> <p>2.態度形成 態度</p> <p>1) 看護の対象や看護に対する興味関心を持ち、文献やメディアからの情報を得ようとする。</p> <p>2) 看護について、自身の考えを表現し、他者とのディスカッションによって自身の考えを発展させることができる。</p> <p>3. 技能</p> <p>1) 看護に対する考えについて、レポートにまとめることができる。2) 課題に関する情報収集を行って、プレゼンテーションに必要な媒体を作成することができる。3) 課題に関するプレゼンテーションができる。</p>					
<b>準備学修</b>					
<p>講義前にシラバスで学習項目を確認し、該当する部分の教科書に目を通し、事前課題に取り組んでおく。また、新聞や雑誌・インターネット等を活用し、看護や看護職、看護の対象、国際看護等、学習課題に関する資料を入手し、学習内容の理解に活用する。「地域在宅看護フィールド演習」の科目で看護活動の場を実際に見学した学びを生かし、看護のイメージ化を図りながら、さまざまな看護の対象と看護の役割と機能について理解を深める。予習・復習に必要な時間は、全体で29時間である。</p>					
<b>成績評価基準</b>					
<p>授業態度・課題レポート(10点)および試験(90点)で評価を行う。課題の締め切りに遅れた場合は、減点されるので、締め切り日に注意する。また、課題レポート未提出の場合は、定期試験の再試験受験の際に10点の減点を行う。授業態度には、授業に臨む姿勢、プレゼンテーション、グループ討議などのディスカッションが含まれる。</p>					
<b>課題等に対するフィードバック</b>					
<p>課題等に関するフィードバックは、発表および提出された課題レポートへのコメント等、授業の中で行う。</p>					
<b>教科書・参考書など</b>					
<p>教科書：宮脇美保子・宮林郁子著 『基礎看護学 看護学概論』メヂカルフレンド社          F、ナイチンゲール、薄井坦子、小玉香津子他訳 『看護覚え書き』 現代社          V.ヘンダーソン、湯槇ます他訳 『看護の基本となるもの』 日本看護協会出版会          日本看護協会監修 『看護者の基本的責務(新版)』、日本看護協会出版会</p> <p>参考書：V.ヘンダーソン他、稲田八重子他訳：『新版・看護の本質』現代社          佐藤登美編：『看護学概論(新体系看護学第16巻)』メヂカルフレンド社</p>					

**《授業計画》**

回	担当教員名	学修内容
1	青木久恵	ユニット1 人間科学としての看護学 ガイダンス 「看護における基本的な概念」 看護学概論の概要を理解した上で、看護の歴史の変遷について学習し、看護とは何かを考える。
2	青木久恵	ユニット2 人間と健康 看護実践における重要な概念である「人間」「健康」について学ぶ。
3	青木久恵	ユニット3 看護の役割と機能 看護の役割と機能について学び、健康・医療・福祉の連携について考える。 看護実践の方法の概要について理解し、身につけるべき看護の知識・技術・態度について考える。
4	青木久恵	ユニット4 看護における倫理 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と法について理解し、看護における倫理の必要性について学ぶ。
5	門司真由美	ユニット5 看護実践における制度と行政 看護実践を支える看護に関する制度と看護行政について学ぶ。
6	門司真由美	ユニット6 専門職としての看護 看護基礎教育の歴史の変遷を学び、専門職としての看護の役割と責任についてのあり方について考える。
7	青木久恵	ユニット7 医療安全 医療事故の発生とそのメカニズムに関する理解を深め、これから身につけるべき医療安全対策について具体的に考える。
8	青木久恵	ユニット8 グローバル社会と看護 異なる文化の存在を知り、国際化に伴う看護のあり方、平常時・非常時の看護の責務について学ぶ。

《専門分野 基礎看護学》

科目名	基礎看護技術論演習			科目コード	DN111635
評価責任者	門司 真由美 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	15回
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。 -2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。 -3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。			
<b>授業の目的とねらい</b>					
授業のねらい 看護において、対象者に技術を提供する際には、対象者の「安全」「安楽」「自立」の視点を踏まえた意図的な関わりが必要である。本科目では、看護を提供する上で基本となる看護技術とは何かを理解し、基本的な看護技術の知識と看護技術修得に向けた基本的態度を養うことを目的とする。本科目では、看護共通技術として、人間関係を構築する上で必要なコミュニケーション技術、対象者と看護師自身の安全を守る、感染予防・安全管理・安楽確保の技術、観察・記録・報告といった看護を継続・実施していくための技術、療養環境を調整する技術を、講義や演習を通して学修し技術を修得する。本科目は、看護技術の習得も必要な科目であるため、演習項目については、技術に関する動画などで事前にイメージしておく。また、技術は、根拠を踏まえて、自己演習を反復することが必須であり、繰り返し技術練習を重ねることで習得可能となるため、積極的に自己練習をすることを期待している。 (実務経験を生かした教育内容) 大学附属病院や公立病院などにおける看護師の実務経験を生かして、援助的人間関係を構築するために有効なコミュニケーションや対象者の安全で快適な生活を守るために必須の共通した技術の要点について基本的な知識・技術・態度を教授する。					
<b>到達目標</b>					
1. 全体像の理解 知識 1) 看護を提供する上で基本となる技術の意味や重要性について述べるができる。 2) 安全を守り、安楽を確保する技術の基本的知識を述べるができる。 3) 環境を整える技術の基本的知識を述べるができる。 2. 態度形成 態度 1) 基本的なコミュニケーション能力を身に付けることができる。 2) 看護を提供する上で基本的な看護技術の知識と技術を修得する姿勢を養うことができる。 3) 看護技術提供時に、患者に与える影響を意識し行うことができる。 4) グループで協力し、効果的に学習を行う態度で演習に臨むことができる。 5) 技術を振り返り、自己の課題を明確にできる。 3. 技能 1) 安全を守る技術や安全を守り、安楽を確保する技術を修得できる。 2) 環境を整える技術を修得できる。					
<b>準備学修</b>					
講義前にシラバスで授業内容を確認し、該当する内容の教科書に目を通しておく。基礎看護技術に関する予習や自己練習内容を、教科書のQRコードの動画視聴や自己練習を含めて15時間以上の学習を必要とする。					
<b>成績評価基準</b>					
筆記試験(70点)、授業態度・課題(30点)など総合100点で評価する。但し、再試験(筆記)時、課題提出が80%未満の場合は、素点から20点減点する。筆記試験内容は、各単元の教員の講義中に重要ポイントとして説明を行う。また、看護師国家試験で出題される講義内容に関する基礎看護技術の基本的な知識を問う。 課題レポートは、課題出題時に教員が評価ポイントを説明する。講義後の予習・復習課題や看護技術の演習記録が主となり、提出期限に遅れた場合には減点対象とする。また、課題レポート提出日まで質問を受け付ける。 態度は、積極的な授業参加や発言など、授業に臨む姿勢が含まれる。					
<b>課題等に対するフィードバック</b>					
提出されたレポートは評価後、各単元担当教員が定期試験前までに返却及び課題に対する解説を行う。					
<b>教科書・参考書など</b>					
<教科書> 深井喜代子 編 『新体系 看護学全書 基礎看護学2 基礎看護技術』 メヂカルフレンド社 深井喜代子 編 『新体系 看護学全書 基礎看護学3 基礎看護技術』 メヂカルフレンド社 任和子、井川順子 編 『根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術』 医学書院 佐藤和良 著 『看護学生のための物理学』医学書院 水田祥代、窪田恵子 監修 『授業・演習、臨床・在宅現場でも、すぐに使える！ 看護で教える最新の口腔ケア』大道学館出版部 福岡看護大学 『基礎看護学実習 実習要項』、福岡看護大学 『共通編実習要項』、福岡看護大学 『看護技術経験録』 <参考書> 小川鑛一 著 『看護の環境と人間工学』 サイオ出版 竹尾恵子監修 『看護技術プラクティス』 学研					

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	門司真由美	ユニット1：看護技術の基本 ユニット2：対象者との関係を築くための技術 -コミュニケーション
2	門司真由美	ユニット3：看護を継続して実施していくための技術 -観察・記録・報告
3	深川 知栄 門司真由美	ユニット4：安全を守る技術 -スタンダードプリコーション
4	青木久恵	ユニット4：安全を守る技術 -医療安全 -職業的曝露
5	門司真由美	ユニット5：安全を守り、安楽を確保する技術 -ボディメカニクスと安楽の保持
6	門司真由美	ユニット5：安全を守り、安楽を確保する技術 -褥瘡予防
7	門司真由美 香山真衣子 橋本 真弥 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット4・5：安全を守る技術や安全を守り、安楽を確保する技術（演習） -衛生的な手洗い -スタンダードプリコーション -ボディメカニクスの原理と体位変換（ポジショニング・寝返り・起上がり）
8	門司真由美 香山真衣子 橋本 真弥 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット4・5：安全を守る技術や安全を守り、安楽を確保する技術（演習） -衛生的な手洗い -スタンダードプリコーション -ボディメカニクスの原理と体位変換（ポジショニング・寝返り・起上がり）
9	橋本 真弥 門司真由美	ユニット6：環境を整える技術 -環境アセスメントと環境調整の意義
10	橋本 真弥 門司真由美 香山真衣子 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット6：環境を整える技術 -ベッドメイキングと環境調整（演習）
11	橋本 真弥 門司真由美 香山真衣子 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット6：環境を整える技術 -ベッドメイキングと環境調整（演習）
12	橋本 真弥 門司真由美 香山真衣子 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット5・6：安全を守り、安楽を確保する技術、環境を整える技術 -シーツ交換（演習）
13	橋本 真弥 門司真由美 香山真衣子 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット5・6：安全を守り、安楽を確保する技術、環境を整える技術 -シーツ交換（演習） -血圧測定技術における安全性について
14	深川 知栄 門司真由美	ユニット4：安全を守る技術 感染予防技術 -無菌操作
15	深川 知栄 門司真由美 香山真衣子 橋本 真弥 加峯 奈々	ユニット4：安全を守る技術 感染予防技術 -無菌操作（演習）

《専門分野 地域在宅看護論》

科目名	地域在宅看護フィールド演習			科目コード	DN111785
評価責任者	宮園 真美 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。</li> <li>-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。</li> <li>-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。</li> <li>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。</li> <li>-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。</li> <li>-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。</li> <li>-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。</li> </ul>				
<b>授業の目的とねらい</b>					
<p>1年生の前期にあるこの科目では、看護学を学ぶ動機づけとなる体験として初めての学外演習（フィールドワーク）という学習形態で学修をします。学外施設は、病院、介護老人保健施設、介護老人福祉施設とし、見学を通して医療の対象者、地域、在宅で生活する対象者および家族への看護の概要について理解を深めます。また、生活環境、社会資源や制度、在宅ケアチームの多職種協働についても学びを広げます。</p> <p>実務経験を生かした教育内容 病院施設における看護、地域における公衆衛生看護および訪問看護の経験を活かし、施設や地域で療養する対象者および家族の最適な生活（well-being）を目指した看護実践を指導する。</p> <p>アクティブラーニング フィールドワーク、グループワーク、ディスカッションを取り入れた学修とする。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>1. 知識 各施設の目的、特徴、看護の役割について説明できる。 地域在宅看護に関連する社会資源や制度の活用を説明できる。</p> <p>2. 態度 積極的に見学し、質問や発表ができる。 今後の看護への学びのための動機づけとなる。</p> <p>3. 技術 見学を通して、学んだことや感想を発表する事ができる。 各施設の目的、特徴、看護の役割についてレポートにまとめることができる。</p>					
<b>準備学修</b>					
<p>提示される読書、課題、プレゼンテーション準備やその他学習活動に約60分以上/回を費やすこと。また、授業で配布するプリントや返却された資料についても予習、復習に活用すること。</p>					
<b>成績評価基準</b>					
<p>授業態度・課題内容（20点）とレポート評価（80点）によって総合100点で評価する。 レポートは毎回提出する。課題の締め切りに遅れた場合は減点対象となる。</p>					
<b>課題等に対するフィードバック</b>					
<p>課題レポートなどは、評価後に解説し返却する。</p>					
<b>教科書・参考書など</b>					
<p>（教科書） なし （参考書） 講義中に提示する。</p>					

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	宮坂啓子	ガイダンス 学外実習オリエンテーション 各施設の概要
2	宮坂啓子	1.病院における看護の見学とグループワーク 1) 院内における看護師の役割を理解する 2) 多職種連携に関わる職種を理解する 3) 病院の機能と設備について理解する
3	宮坂啓子	1.病院における看護の見学とグループワーク 1) 院内における看護師の役割を理解する 2) 多職種連携に関わる職種を理解する 3) 病院の機能と設備について理解する
4	小島美里	2.介護老人保健施設における看護の見学とグループワーク 1) 介護老人保健施設における看護師の役割を理解する 2) 入居者の特徴について理解する 3) 多職種連携について理解する 4) 介護老人保健施設の機能と設備について理解する
5	小島美里	2.介護老人保健施設における看護の見学とグループワーク 1) 介護老人保健施設における看護師の役割を理解する 2) 入居者の特徴について理解する 3) 多職種連携について理解する 4) 介護老人保健施設の機能と設備について理解する
6	山中富	3.介護老人福祉施設における看護の見学とグループワーク 1) 介護老人福祉施設における看護師の役割を理解する 2) 入居者の特徴について理解する 3) 多職種連携について理解する 4) 介護福祉保健施設の機能と設備について理解する
7	山中富	3.介護老人福祉施設における看護の見学とグループワーク 1) 介護老人福祉施設における看護師の役割を理解する 2) 入居者の特徴について理解する 3) 多職種連携について理解する 4) 介護福祉保健施設の機能と設備について理解する
8	宮園真美 町島希美絵	4.全体発表によって学びの共有を図る。 1) 各施設の特徴と対象者の生活 2) 各施設内における看護職の役割 3) 各施設内の多職種連携 4) 地域、在宅で生活する対象および家族への看護の概要について考察する 6) 今後の看護に活かす話し合い



《基礎分野 思考表現力》

科目名	論理的思考法			科目コード	DN111015
評価責任者	学生部長 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	15回
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。			

**授業の目的とねらい**

医療現場におけるコミュニケーションにおいては、「想いを伝える」こと以上に、「論理的に伝える」ことが必要不可欠である。「なぜ、そう言えるのか」「なぜ、そうする必要があるのか」を患者や家族、あるいは他の医療従事者に説明するためには、論理的に考え、論理的に伝える力が必要である。「何を前提とした話なのか」「その前提が真であると仮定した場合、そこから論理的に導き出される結論は何か」を考えることが、論理的思考ができているということである。論理的思考は、日常的な判断場面でも、倫理的葛藤問題を議論する場面でも、レポートや論文をまとめる場面でも用いることとなる。ロジカル・ライティングと論法の基本を学ぶことで、学生生活のみならず、これからの医療者としての日々や日常生活でも活用できる基礎力をつけることが目的である。

**到達目標**

**【技能】**

1. ロジカル・ライティングの修得
  - 1) 論理的に伝えるために「接続詞の使い方」を習得する
  - 2) 論理的な文章を書くための「文章の設計図の作り方」を習得する
2. 論法の習得
  - 1) 「論証の型」を理解する
  - 2) 様々な論法（三段論法等）を理解する
  - 3) 反論の仕方を理解する
  - 4) 「根拠の妥当性」に関する感度を上げる

**準備学修**

講義前にシラバスで次回内容を確認し、テキストの該当する部分を読んだ上で講義に臨むこと。  
予習・復習に必要な時間は全体で15時間とする。

**成績評価基準**

試験（40%）、毎回の提出課題（40%）、授業態度（20%）を総合100点で評価する。  
授業態度はグループワーク等への積極性で評価する。

**課題等に対するフィードバック**

提出課題は評価終了後に返却する。

**教科書・参考書など**

<教科書>  
篠澤和久 他『はじめての論理学：伝わるロジカル・ライティング入門』有斐閣

<参考書>  
植原亮『思考力改善ドリル』勁草書房  
稲葉一人 他『こちら臨床倫理相談室』南江堂

**《授業計画》**

回	担当教員名	学修内容
1	柴村馨	【看護と論理的思考】 1) 看護の実践には論理的思考力が必要不可欠であることを理解する 2) 日常的に論理的思考を実践していることを確認する 3) 授業ガイダンス
2	柴村馨	【言葉の使い方を学ぶ】 1) テキスト第1章 (pp.3-13) を読んでくる 2) 同じ事柄について説明してみ、説明の仕方に違いが生じることを理解する
3	柴村馨	【日本語と論理】 1) テキスト第2章 (pp.14-23) を読んでくる 2) 「他者に届く言葉」に必要なことを理解する 3) 「エスカレーターの使用法」をわかりやすく伝える
4	柴村馨	【文と文のつながり】 1) テキスト第3章 (pp.27-44) を読んでくる 2) 接続表現を理解する 3) 「因果関係」を理解する
5	柴村馨	【論文の仕組み - パラグラフを使いこなす】 1) テキスト第4章 (pp.45-63) を読んでくる 2) パラグラフの構成を理解する 3) 論文の構成を理解する
6	柴村馨	【論文の設計図 - アウトラインを活用する】 1) テキスト第5章 (pp.64-83) を読んでくる 2) アウトラインの育て方を理解する 3) 論文の構成を理解する
7	柴村馨	【論証の定石】 1) テキスト第6章 (pp.87-108) を読んでくる 2) 様々な論法があることを理解する
8	柴村馨	【論証の実践】 1) 前回の内容を復習してくる 2) 論証を使って表現してみる
9	柴村馨	【反論の定石】 1) テキスト第7章 (pp.109-123) を読んでくる 2) 「水掛け論」について理解する 3) 様々な反論の種類があることを理解する
10	柴村馨	【反論の実践】 1) テキスト第8章 (pp.124-141) を読んでくる 2) 「誤りのパターン」を理解する 3) 反論するときの注目ポイントを知る
11	柴村馨	【記号論理の基礎】 1) テキスト第9章 (pp.145-167) を読んでくる 2) 「論証の型」を理解する 3) 「論理語」を理解する
12	柴村馨	【記号論理の応用 - 三段論法による議論】 1) テキスト第10章 (pp.168-190) を読んでくる 2) 「条件法」を理解する 3) 十分条件・必要条件・必要十分条件を理解する 4) 帰納と仮説形成を理解する
13	柴村馨	【根拠の妥当性】 1) 根拠の妥当性について検討ポイントを理解する 2) 根拠として用いて良いかどうか検討できる
14	柴村馨	【倫理的問題を検討してみる】 1) 「終末期の治療中止の事例」について検討してみる 2) 実際の判例を理解する
15	柴村馨	【論理的思考の活用のために】 1) 心理的安全性について理解する 2) 心理的安全性と論理的思考の関連について理解する

《基礎分野 思考表現力》

科目名	英語コミュニケーション（応用）			科目コード	DN111020
評価責任者	学生部長 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	15回
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。 -2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。 -7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。				
<b>授業の目的とねらい</b>					
「英語コミュニケーション」で習得した「聞く力」、「伝える力」、「読む力」の3つの力をさらに高め、英語コミュニケーション・スキルの基盤を発展させることを目的とする。教材はコミュニケーションを図る上で役に立つ日常生活や医療現場を想定したものを選定する。はじめに国際的視野を広げるために英語の会話文や説明文に触れて、語彙、文法、構文などの総合的な面から十分に内容を理解し、英文の音読や暗唱を通じてさらにリスニング、ペアワーク、スピーキングへと応用させ、より実践的な英語コミュニケーション力の向上を目指す。					
<b>到達目標</b>					
全体としての到達目標： 日常生活や医療現場に役立つ基本的な語彙や表現を習得し、使うことができる。					
知識： 日常生活や医療現場に役立つ基本的な語彙や表現を記述できる。					
態度・技能形成： 日常生活や医療現場に役立つ基本的な語彙や表現を聞き取り、理解した上で（英語および日本語で）伝えることができる。					
<b>準備学修</b>					
授業前後に教科書やプリントを読み、英語の語彙や文意を調べて、できるだけ多くの英語表現を覚えること。予習・復習に必要な時間は全体で 15 時間とする。					
<b>成績評価基準</b>					
受講態度等：積極性、会話力（10%～20%）、中間テストおよび定期試験：英文の理解力、英語表現力（80%～90%）として総合100点で評価する。					
<b>課題等に対するフィードバック</b>					
課題は特に予定していない。					
<b>教科書・参考書など</b>					
（教科書） 古閑博美 他『New 20 Healthcare Dialogs』鷹書房弓プレス					
（参考書） 英和辞典、和英辞典（出版社等は問わない）					

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット1 電話予約 1)日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。 2)聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。
2	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット2 受診手続き 1)日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。 2)聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。
3	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット3 診察の順番待ち 1)日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。 2)聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。
4	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット4 再診 1)日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。 2)聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。
5	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット5 入院の指示 1)日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。 2)聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。
6	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット6 入院手続き 1)日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。 2)聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。
7	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット7 患者に質問 1)日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。 2)聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。
8	岡島勇太、ニールセン・ピーター	中間テスト, etc. 1)日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を復習する。 2)聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。
9	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット8 入浴の許可 1)日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。 2)聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。
10	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット9 薬の指示 1)日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。 2)聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。
11	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット10 検査の指示 1)日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。 2)聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。
12	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット11 内科 1)日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。 2)聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。
13	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット12 外科 1)日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。 2)聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。
14	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット13 小児科 1)日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。 2)聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。
15	岡島勇太、ニールセン・ピーター	ユニット14 歯科 1)日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。 2)聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。

《基礎分野 人間関係と態度》

科目名	人間関係論			科目コード	DN111310
評価責任者	学生部長 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。 -2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。 -3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。			

**授業の目的とねらい**

人間や社会の在り方、人格発達論や、人間関係を円滑にするためのコミュニケーションなどを学び、自らの心の働きを理解し、他者理解のための知識や自己抑制できる能力やスキルを得て、他者との関わり方について理解するとともに、優れた実践ができる人格を養う。これらの能力やスキルを通して医療、看護の場で対象との良好な関係性を形成できることを目指している。

**到達目標**

全体の到達目標：人間関係の基盤となる理論を理解した上で、コミュニケーションやケア場面での具体的な人間関係およびカウンセリング技法について説明できるとともに看護ケアに生かす方法や社会的ケアの問題について考える。

知識

- 1) 人間とはどのような存在なのか、人間関係をなぜ考えなければならないか、どのように行うのかを説明できる。
- 2) エリクソンの人格発達論を軸とする人格発達理論について説明できる。
- 3) 人間関係における社会的相互作用とその役割を知り、ケアにおける具体的な働きについて説明できる。
- 4) コミュニケーションとは何かを知り、ケアの場面での有効性を理解し、その現代的進化における問題点について説明できる。

態度・技能形成

- 5) 人間関係の研究手法と体験学習について学ぶ。特にカウンセリングの技法と体験学習はケアの参考にもなるので理解を深め、看護ケアに生かす方法を考える。
- 6) 看護における人間関係のうち、特にチーム医療の概念に基づく、広範な人間関係について理解し、それぞれにおけるかかわり方について考える。
- 7) 看護における人間関係のうち特に対家族の問題を理解する。
- 8) ソーシャルサポートとノーマライゼーションという社会的ケアの問題について理解し現状と未来を考える。

**準備学修**

配布資料をもとに予習・復習をする。毎回、予習復習に3～4時間をあてる。

**成績評価基準**

終講時の客観式テスト（70%）、講義中の態度・質問（10%）、課題レポート（20%）など総合評価する。課題レポート等については、学習量および理解度で判定する。

**課題等に対するフィードバック**

特筆すべきレポートを授業中に紹介することでクラス全体のフィードバックを行う

**教科書・参考書など**

（教科書）

石川ひろの 他『系統看護学講座 基礎分野 人間関係論』医学書院  
講師が作成する資料

（参考書）

村中直人 著『<叱る依存>がとまらない』紀伊国屋書店

**《授業計画》**

回	担当教員名	学修内容
1	中島俊介	ユニット1 人間の存在と人間関係
2	中島俊介	ユニット2 人格発達論
3	中島俊介	ユニット3 社会的相互作用と社会的役割
4	中島俊介	ユニット4 コミュニケーション
5	中島俊介	ユニット5 人間関係の研究と向上のためのスキル
6	中島俊介	ユニット6 看護における人間関係とチーム医療
7	中島俊介	ユニット7 家族看護の問題
8	中島俊介	ユニット8 ソーシャルサポートとノーマライゼーション

《基礎分野 人間関係と態度》

科目名	家族関係論			科目コード	DN111315
評価責任者	学生部長 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助の人間関係を構築できる。 -2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。			

**授業の目的とねらい**

本授業では、基本的な家族概念、家族とは何か、社会にとって家族の役割などを学習する。その際に、人生における典型的なライフイベントである進学、主食、結婚・出産・子育て、離婚・介護、死に着目し、その意味について言及する。また、受講者自身がこれまでの家族生活を整理したり、今後の家族生活をデザインしたりするための題材を提供する。応用的論点として、児童虐待、いじめ、男女の差異や平等性をめぐるジェンダー、家族を取り巻く地域コミュニティ、家族の機能に関する政策・制度や支援職について解説する。必要に応じて、視聴覚資料・DVD・ビデオ教材などを使用する。

**到達目標**

目標：基本的な家族概念、家族関係および社会における家族の役割について理解する。

- 知識：
- 1) 家族とは何か、家族の構造と機能について説明することができる。
  - 2) 家族関係に関する自分の価値観を理解し、説明することができる。
  - 3) 社会的問題とされる、児童虐待、引きこもりとその家族について理解する。
  - 4) 恋愛、結婚とパートナー関係について説明することができる。
  - 5) 育児と子育て支援について説明することができる。
  - 6) 社会的養護（児童養護施設等）における、保育士と子どもの関係性について検討する。
  - 7) 生命倫理、出生前診断、優生思想について理解し、自己・他者の意見を理解する。

態度形成： 1) 時事問題に着目し、ネットニュース等を自発的に閲覧すること。 2) 意見があれば、積極的に発言すること。 3) 他者の意見を尊重し、価値観を共有すること。

スキル形成：家族関係における事例や話題を基に、課題探求力を身につけることができる。

**準備学修**

家族に関する既習の科目について復習を行っておく。授業前にシラバスの該当する部分の教科書を読んでおく。予習・復習に必要な時間は全体で30時間とする。

**成績評価基準**

本科目の学修成果は、主に筆記試験、課題レポート、グループワーク参加状況で確認する。  
 筆記試験：理解内容の正確性（70%）、課題レポート：理解内容の適切性（20%）、グループワーク、授業への積極性：発言や質問の頻度や適切性（10%）で評価する。毎回のレポートなど提出物の期限が守れなかった場合は減点対象とする。

**課題等に対するフィードバック**

必要に応じて講義内でコメントする

**教科書・参考書など**

（教科書）  
 主に、配布プリント・資料、担当講師が作成したパワーポイントを用いる。

（参考書）  
 鈴木和子ほか『家族看護学』日本看護協会出版会  
 大熊保彦ほか『家族論・家族関係論』医学書院  
 その他適宜提示する

**《授業計画》**

回	担当教員名	学修内容
1	大黒剛	ユニット1：授業概要説明・家族とは何か ・自分にとって家族の存在はどのようなものか。 ・自己と家族の関係性について振り返る。
2	大黒剛	ユニット2：家族関係の変遷 ・家族は歴史的にどのように変化したのか。 ・日本の家族、世界の家族との比較。
3	大黒剛	ユニット3：家族を取り巻く社会問題 ・児童虐待の実態について。 ・虐待による心身への影響。
4	大黒剛	ユニット4：家族を取り巻く社会問題 ・引きこもりの実態について。 ・引きこもりとその家族、その対応と予後について。
5	大黒剛	ユニット5：恋愛と結婚 ・人にとって恋愛とは何か。恋愛のタイプ論について。 ・自分の恋愛観、相性が合うパートナーについて知る。 ・結婚観の歴史的変遷について。
6	大黒剛	ユニット6：生命倫理、出産、子育て、子育て支援 ・出生前診断と優生思想について。 ・親のどのような関わりによって子供が心身健康に育つか、発達心理学的視点。
7	大黒剛	ユニット7：社会的養護 ・色々な事情により親と離れて暮らす子どもの実態。 ・“血のつながり”は親子関係においてどの程度重要なのか。
8	大黒剛	ユニット8：家族の再編成（子どもが家族から自立した後） ・人生で最も苦しい年代、壮年期について。 ・新しい家族像、老後について。



《基礎分野 人間関係と態度》

科目名	地域活動と社会貢献			科目コード	DN112320
評価責任者	町島 希美絵 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	演習	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。 -2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。			
<b>授業の目的とねらい</b>					
将来、豊かな人間性と倫理観をもとに社会貢献に努めることができる看護師を目指し、SDGs活動やボランティアに関する基本的考えを学ぶ。また、看護職が実践したボランティア活動を知る機会を得ることで、看護職のボランティアリズムについて考察できる。さらにグループワークにて実践可能なボランティア活動を計画し、人員を募集するプレゼンテーション資料の作成を通して、企画・運営について考察できる。					
<b>到達目標</b>					
1. 知識 1) 社会貢献活動の変遷およびボランティア活動に関する基礎的知識について説明できる。 2) 持続可能な社会の実現に向けたSDGs活動に関する基礎的知識について説明できる。 3) 看護職に求められるボランティア活動の一例を説明できる。 2. 態度 1) SDGsへの取り組みや地域社会でのボランティア活動に興味・関心を持てる。 3. 技能 1) 看護学生に求められるボランティア活動について、実践可能な計画を立案できる。 2) ボランティア活動計画を他者にわかりやすくプレゼンテーションできる。					
<b>準備学修</b>					
シラバスに書かれた内容について、各個人で興味がある内容を調査し、プレゼンテーション資料を作成する。これに要する時間は、総計29時間とする。 履修にあたり、ボランティア経験があればなお望ましい。					
<b>成績評価基準</b>					
レポート50点（ 20点 30点） ボランティア活動計画書30点・プレゼンテーション資料20点 ボランティア活動参加で加点あり。					
<b>課題等に対するフィードバック</b>					
必要時コメントを記載し、適宜返却する。					
<b>教科書・参考書など</b>					
教科書 なし 参考書 三谷はるよ 『ボランティアを生みだすもの -利他の計量社会学-』有斐閣 岡本栄一 『学生のためのボランティア論』大阪ボランティア協会 その他、関連書籍を初回時に提示する。					

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	寒水章納	ユニット1: 様々な社会貢献活動とその概念 1) ボランティア活動の理念と役割 2) ボランティア活動における日本と海外の動向 3) NGOとNPO 4) 持続可能な社会の実現とSDGs活動
2	寒水章納	ユニット2: 看護職におけるボランティア活動の現状と課題 1) ゲストスピーカーの講話を聴講し、学びと感想をまとめる(レポート課題)
3	寒水章納	ユニット3: ボランティア活動に必要なマナーと心構え 1) グループワークを通して、ボランティア活動に求められるマナーと心構えについて学習する
4	町島希美絵	ユニット4: ボランティア活動計画書 1) ボランティア活動計画書の立案に必要な基礎知識を学習する 2) 看護学生ができる実践可能なボランティア活動を計画する
5	町島希美絵	ユニット4: ボランティア活動計画書 1) ボランティア活動計画書の立案に必要な基礎知識を学習する 2) 看護学生ができる実践可能なボランティア活動を計画する
6	寒水章納	ユニット5: ボランティア活動参加を促すプレゼンテーション方法 1) ボランティア活動参加を促せる効果的なプレゼンテーション方法について学習する 2) 人員募集のためのプレゼンテーション資料を作成する 3) グループメンバーで役割分担と発表準備を行う
7	寒水章納	ユニット5: ボランティア活動参加を促すプレゼンテーション方法 1) ボランティア活動参加を促せる効果的なプレゼンテーション方法について学習する 2) 人員募集のためのプレゼンテーション資料を作成する 3) グループメンバーで役割分担と発表準備を行う
8	町島希美絵・寒水章納	ユニット6: 看護学生企画の発表と学びの共有 1) グループで計画したボランティア活動について発表し、他のグループと意見交換を行いながら、学びを共有する 2) 看護学生に求められるボランティア活動について、自己の考えをまとめる(レポート課題)

科目名	教育方法概論			科目コード	DN112325
評価責任者	学生部長 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。				
<b>授業の目的とねらい</b>					
<p>この授業では、看護を志す者として、患者・家族への指導や後輩看護師への指導のための、そして健康教育などの教育的機能を発揮する場面に生かすための、教育方法に関する基本的な知識や技能について概要を理解できるように、講義をすすめていく。</p> <p>まず、「人の発達と学習」についての理解を深める。看護師には、新生児から高齢者までの幅広い多様な患者さんと接するという職業上の特徴があるため、人の発達や学習について理解することで、より深く看護の対象について理解することができる。</p> <p>次に、「指導の基本」について理解する。看護師として遭遇する場面で役立つ指導（患者・家族への指導や後輩看護師への指導、健康教育指導）の基本となる知識と技能を身につけていく。</p> <p>そして、「さまざまな指導の技法」について理解を深めていく。効果的な学習を促す手段として、学習意欲を高める技法やコーチングの技法などがある。それらを、看護師として遭遇する場面でどのように活用したらよいかを理解していく。</p> <p>さらに、看護師が専門職として自分自身の学習について理解し、自分自身のキャリア開発にむけた学習についても理解を深める。</p>					
<b>到達目標</b>					
全体の到達目標：看護の教育的機能に活かすための、教育方法に関する基本的な知識や技能について理解する。					
知識					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人の発達と学習について説明できる。</li> <li>2. 指導の基本について説明できる。</li> <li>3. さまざまな指導の工夫について説明できる。</li> </ol>					
態度					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人の発達と学習の理解を踏まえて多様な人への援助的対応ができる。</li> <li>2. 看護師として求められる指導に対応する準備ができていく。</li> </ol>					
技能形成					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育方法に関する基本的な知識や技能と看護の教育的機能について関連して考察できる。</li> </ol>					
<b>準備学修</b>					
学生は、必須または推奨される読書、課題、その他学習活動に約60分/週を費やすこと。また、授業で配布するプリントについても予習、復習に活用すること。					
<b>成績評価基準</b>					
<p>授業出席3分の2以上で受験資格を認定する。</p> <p>授業中に講義ノートを作成し、評価のひとつにする。</p> <p>試験60%、授業参加（準備したノートを完成・レポート提出）・態度（授業妨害せず熱心に受講、私語等による授業妨害は - 1点）40%の割合で評価する。</p>					
<b>課題等に対するフィードバック</b>					
課題提出の次の授業で提出された内容についてコメントする。					
<b>教科書・参考書など</b>					
<p>教科書：「看護のための教育学」中井俊樹 小林忠資 編著 医学書院 2022</p> <p>参考書：「新しい時代の教育方法（改訂版）」田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之（著） 有斐閣アルマ 2021 改訂版</p>					

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	石橋孝明 講義全体のオリエンテーション 【第1部：人の発達と学習】 1章：学ぶことと教えること	1章：1 生涯学習社会を生きる 2 なぜ教育が大切なのか 3 教える準備にとりかかる
2	石橋孝明 【第1部：人の発達と学習】 2章：人の発達を理解する	2章：1 人の発達の特徴 2 認知能力の発達を理解する 3 自己の発達を理解する 4 対人関係の発達を理解する
3	石橋孝明 【第1部：人の発達と学習】 3章：学習の原理を理解する	3章：1 学習とその特徴を理解する 2 知識を獲得する 3 経験から学習する 4 参加を通じて学習する
4	石橋孝明 【第2部：指導の基本】 4章：指導者の役割と倫理を理解する 5章：指導を設計する	4章：1 指導者には様々な役割がある 2 指導者の6つの役割 3 指導者としての倫理 5章：1 指導の設計を始める 2 学習目標を設定する 3 適切な指導方法を選択する 4 アクティブラーニングを取り入れる
5	石橋孝明 【第2部：指導の基本】 6章：効果的に指導する 7章：学習を評価する	6章：1 効果的な指導の型を理解する 2 導入で学習の準備を整える 3 展開で学習内容を深める 4 まとめで学習を定着させる 7章：1 評価の特徴を理解する 2 評価の構成要素を理解する 3 評価の効果を高める 4 フィードバックを効果的に与える
6	石橋孝明 第3部：さまざまな指導の技法】 8章：学習意欲を高める技法 9章：コーチングの技法	8章：1 学習意欲を理解する 2 内発的動機づけと外発的動機づけ 3 さまざまな動機づけの理論 4 学習意欲を高めるさまざまな技法 9章：1 コーチングを理解する 2 コーチングのスキルを理解する 3 上手に意見を伝える 4 目標に向けて行動を促す
7	石橋孝明 【第3部：さまざまな指導の技法】 10章：ディスカッションの技法 11章：リフレクションの技法	10章：1 ディスカッションを理解する 2 ディスカッションを準備する 3 ディスカッションを導く 4 ディスカッションを活性化させる工夫 11章：1 経験を学びに変える 2 リフレティブサイクルを理解する 3 リフレクションを支援する 4 集団でのリフレクションを促す
8	石橋孝明 【第4部：キャリア開発と学習】 12章：看護師としての学習を理解する 13章：キャリア開発に向けて学習する	12章：1 看護師としての学習の特徴 2 熟達化を理解する 3 専門職としての学習 4 主体的な学習者を目指す 13章：1 看護師のキャリアを理解する 2 看護師のキャリアの課題 3 活躍の場を広げる 4 キャリア開発のための学習

《専門基礎分野 人体の構造と機能》

科目名	形態機能学（解剖）			科目コード	DN111410
評価責任者	荒川 満枝 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。			

**授業の目的とねらい**

看護においては、対象となる人々の健康な身体構造・機能や疾病を理解するために正常な人体構造の理解が必要である。本科目では、必要な正常人体構造の基本的知識を、情報の伝達と処理の基本となる神経系を中心として図解しながらポイントを示した資料を基に学修する。また栄養の消化吸収の機構を消化器系の構造、体液と尿の産生を泌尿器系の構造、呼吸の機構を呼吸器系の構造、および人体の発生過程を生殖器の構造とあわせて学修する。

**到達目標**

の発生について理解できる。

知識

1. 神経系の基本構造について述べる（記述する）ことができる。
2. 脳・脊髄について述べる（記述する）ことができる。
3. 脳神経について述べる（記述する）ことができる。
4. 脊髄神経について述べる（記述する）ことができる。
5. 伝導路について述べる（記述する）ことができる。
6. 自律神経系について述べる（記述する）ことができる。
7. 内分泌系について述べる（記述する）ことができる。
8. 消化器系について述べる（記述する）ことができる。
9. 体液の調節について述べる（記述する）ことができる。
10. 呼吸器系の構造について述べる（記述する）ことができる。
11. 感覚器系について述べる（記述する）ことができる。
12. 泌尿器系の構造について述べる（記述する）ことができる。
13. 男性生殖器について述べる（記述する）ことができる。
14. 女性生殖器について述べる（記述する）ことができる。
15. 受精と胎児の発生について述べる（記述する）ことができる。

態度

1. 疑問点について質問することができる。
2. 看護への応用について考えることができる。

**準備学修**

講義前に学修目標および行動目標を確認理解し、予習の項目で指定された教科書の範囲を各自でまとめておくこと。また講義中は聴講により得られた知識を記録すること。さらに講義後は予習において各自でまとめた知識と、聴講により得られた知識を体系化してまとめること。予習・復習に必要な時間は全体で15時間とする。

**成績評価基準**

定期試験（100点）で評価を行う。シラバスから予習を行い、講義で学び、講義内容を確実に板書し、講義後の復習を徹底し到達目標を達成できること。

**課題等に対するフィードバック**

自分が疑問に感じる内容は他人にとっても疑問であるので、疑問を学年全体で共有するために積極的に講義時等に質問を行う事。

**教科書・参考書など**

<教科書>

坂井建雄 他『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学』医学書院

<参考書>

佐藤達夫 他『新版 からだの地図帳』講談社

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	児玉淳	ユニット1 神経系の基本構造について学ぶ。 脳・脊髄について学ぶ。
2	児玉淳	ユニット1 脳神経について学ぶ。
3	児玉淳	ユニット1 脊髄神経について学ぶ。
4	児玉淳	ユニット1 脊髄神経について学ぶ。
5	児玉淳	ユニット1 脊髄神経について学ぶ。
6	児玉淳	ユニット1 伝導路について学ぶ。
7	児玉淳	ユニット1 自律神経系について学ぶ。
8	荒川満枝	ユニット2 消化器系（消化管）の構造について学ぶ。
9	荒川満枝	ユニット2 消化器系（肝臓・胆嚢・膵臓）の構造について学ぶ。
10	荒川満枝	ユニット3 呼吸器系について学ぶ。
11	荒川満枝	ユニット4 血液と生体防御について学ぶ。
12	荒川満枝	ユニット5 泌尿器系について学ぶ。
13	荒川満枝	ユニット5 体液の調節について学ぶ。
14	荒川満枝	ユニット6 内分泌器系について学ぶ。
15	荒川満枝	ユニット7 生殖器系について学ぶ。 皮膚・感覚器について学ぶ。

《専門基礎分野 人体の構造と機能》

科目名	形態機能学（生理）			科目コード	DN111415
評価責任者	学生部長 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。			

**授業の目的とねらい**

人体の生命活動のしくみを理解し、看護に必要なフィジカルアセスメントの基礎となる知識を養うために、血液、心臓、呼吸、消化管、腎臓、自律神経、内分泌、体温調節などに関する機能やそのメカニズムを学ぶ。授業は教科書、配布資料、講義ノートをもとにする。

**到達目標**

< 全体の到達目標 >

血液、心臓、呼吸、消化管、腎臓、自律神経、内分泌、体温調節に関する機能やメカニズムを理解できる。

< 知識 >

1. 血液の成分と機能について説明できる。
2. 心臓の機能とその調節機序について説明できる。
3. 血液循環とその調節機序について説明できる。
4. 呼吸運動の仕組みについて説明できる。
5. ガス交換と呼吸の調節機序について説明できる。
6. 消化管の構成と消化機能について説明できる。
7. 消化酵素の働きと栄養素の吸収について説明できる。
8. 腎臓の機能と排尿機序について説明できる。
9. 自律神経による内臓機能の調節機序について説明できる。
10. 内分泌系による内臓機能の調節機序について説明できる。

< 態度 >

1. 疑問点について質問することができる。
2. 看護への応用について考えることができる。

**準備学修**

配布資料と講義ノートをもとに講義要点を復習する。教科書や参考書を読み、講義に関連する項目について理解を深める。全体の準備学習時間の目安は約15時間とする。

**成績評価基準**

中間試験（30%）と定期試験（70%）を合わせて100点で評価する。

**課題等に対するフィードバック**

試験の結果は試験終了後に開示し、質問があれば答える。

**教科書・参考書など**

< 教科書 >

坂井建雄 他著『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学』医学書院

< 参考書 >

多久和典子 他著『なるほどなっとく！ 解剖生理学』南山堂

**《授業計画》**

回	担当教員名	学修内容
1	藤田亜美	ユニット1 消化と吸収（1）
2	藤田亜美	ユニット1 消化と吸収（2）
3	藤田亜美	ユニット2 呼吸運動とガス交換（1）
4	藤田亜美	ユニット2 呼吸運動とガス交換（2）
5	藤田亜美	ユニット3 血液の組成と機能（1）
6	藤田亜美	ユニット3 血液の組成と機能（2）
7	藤田亜美	中間試験 1～6回の講義内容を復習する。
8	藤田亜美	ユニット4 血液循環とその調節（1）
9	藤田亜美	ユニット4 血液循環とその調節（2）
10	藤田亜美	ユニット4 血液循環とその調節（3）
11	進正史	ユニット5 体液の調節と尿の生成（1）
12	進正史	ユニット5 体液の調節と尿の生成（2）
13	鍛冶屋浩	ユニット6 内臓機能の調節（1）
14	鍛冶屋浩	ユニット6 内臓機能の調節（2）
15	鍛冶屋浩	ユニット6 内臓機能の調節（3）



《専門基礎分野 人体の構造と機能》

科目名	形態機能学演習			科目コード	DN111420
評価責任者	荒川 満枝 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。			

**授業の目的とねらい**

本講義では、解剖見学を通して人体を構成する諸器官の位置関係を三次元空間で理解し、看護に必要な解剖学的知識を修得するとともに、人間の尊厳について深く考えることを目的とする。教育方法として解剖見学に加えて教科書、配布プリント、およびコンピュータ・プロジェクションによる解説講義を実施し、学生の学修力の向上を目指す。

**到達目標**

【全体像の理解・知識】

人体を構成する諸器官に関する基礎知識と看護に必要な解剖学的知識を理解し説明できる。

【態度形成・態度】

学生は解剖見学や講義に積極的に参加することができる。

【技能】

- 1) 体表からみた人体の構造を理解し説明できる。
- 2) 看護で必要な浅層の脈管・神経分布を理解し説明できる。
- 3) 看護で必要な深層の主要血管の分布を理解し説明できる。
- 4) 看護で必要な主要抹消神経の分布を理解し説明できる。
- 5) 脳と脊髄の肉眼構造を理解し説明できる。
- 6) 看護で必要な深層の筋の分布と関節の構造を理解し説明できる。
- 7) 看護で必要な胸腹部内臓の肉眼分布を理解し説明できる。
- 8) 看護で必要な腹部内蔵の肉眼分布を理解し説明できる。

**準備学修**

予習・復習に必要な時間は全体で 29 時間とする。学生は授業で配布するプリントを予習と復習で活用すること。

**成績評価基準**

筆記試験 (50%)、御遺体を対象とした実習試験 (40%)、レポートおよび実習態度 (10%) で評価する。

**課題等に対するフィードバック**

課題レポート等は、評価後に返却し、評価基準の掲示を行う。

**教科書・参考書など**

(教科書)

坂井建雄 他『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学』医学書院

(参考書)

必要に応じて講義の中で紹介する。

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	荒川満枝 ユニット1：内臓系の形態と構造	消化器（肝臓・胆嚢・膵臓を含む）系を構成する臓器について形態とその機能について説明できる。 呼吸器系を構成する臓器について形態・位置と機能について説明できる。 泌尿器系を構成する臓器について形態・位置と機能について説明できる。 内臓系の機能血管と栄養血管とその循環について説明できる。
2	荒川満枝 ユニット2：内臓系の形態と構造	消化器（肝臓・胆嚢・膵臓を含む）系を構成する臓器について形態とその機能について説明できる。 泌尿器系を構成する臓器について形態・位置と機能について説明できる。 生殖器系を構成する臓器について形態・位置とその機能について説明できる。 内臓系の機能血管と栄養血管とその循環について説明できる。
3	荒川満枝 ユニット3：筋系の形態と構造	頭，頸，体幹（胸・腹・部），上肢，下肢の骨格筋について運動学的に説明できる。 骨格筋の支配神経について説明できる。
4	荒川満枝 ユニット4：脈管系の形態と構造	動脈系（体循環と肺循環）について説明できる。 静脈系について説明できる。 リンパ系について説明できる。 主要な動脈と静脈について同定できる。
5	荒川満枝 ユニット5：神経系の形態と構造	中枢神経系について同定し形態と機能を説明できる。
6	荒川満枝 ユニット6：神経系の形態と構造	末梢神経系について同定し形態と機能を説明できる。 脊髄神経叢について同定し形態と機能を説明できる。 脳神経について同定し形態と機能を説明できる。 全身の支配神経（運動と感覚）について説明できる。
7	児玉淳、荒川満枝 ユニット7：解剖見学	系統解剖学的に解剖見学を行う。 体表から触れることのできる，骨，筋，脈管等を同定できる。 内臓系を機能別に同定し確認する。 脈管系として動脈系，静脈系とリンパ系を同定し確認する。
8	児玉淳、荒川満枝 ユニット7：解剖見学	系統解剖学的に解剖見学を行う。 筋系を部位ごとに機能と形態について同定し確認する。 中枢神経系を同定し確認する。 末梢神経系を同定し確認する。

《専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進》

科目名	薬理学			科目コード	DN111451
評価責任者	学生部長 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。			

**授業の目的とねらい**

【授業のねらい】 薬物療法は疾患治療の根幹をなす治療法である。薬物治療において、看護師は、正しく与薬（薬を与えること）するための確認や管理、服薬指導、直接的な与薬の実施などを医師の指示のもと行う。患者にもっとも近いところで薬の作用と副作用を観察し、治療にフィードバックしていく重要な立場となることが求められる。また、薬物処置の最終段階を担うのが看護師であり、この段階では他者によるチェック機能が働かず、医療事故の当事者となることがある。与薬後の患者における有害作用の有無を観察する際には、処置薬に関する知識が必要である。与薬の際に起きる医療事故は、十分な薬理作用・副作用を知ることによって避けられる。特に過量投与で致死的な状況をもたらされるような薬物については、その副作用と用量の関係性をしっかり学ぶことが重要である。この授業において、薬が投与されそして吸収されてからどのような運命をたどって作用部位に到達し、効力を発揮し、代謝されて、そして排泄されるかについて学ぶことで、与薬後、薬が作用して効力を失うまでの間、患者さんの身体で起きる変化の観察に科学的根拠を持って関わるができる。また、主な病気に使用される治療薬の作用の仕組みや作用の特徴、そして副作用の知識を持つことで患者さんを守り、医療事故を防ぐことができる。

【教育方法・学習方法】 講義資料を事前に配布して、パワーポイントを用いた講義形式で実施する。講義資料は、重要なキーワードなどを空白としており、講義を聴くことで資料が完成するようになっている。毎回、授業内容に即した小テストを実施するので、その都度学んだ知識や理解度を確認することができるようになっている。また、提出課題に取り組むことで学修の強化を目指す。

**到達目標**

【全体像の理解】  
臨床において使用される薬の特徴と薬物療法の知識を習得する。

- 【知識・態度・技能形成】
- 1) 薬物の投与から排泄までの体内での動態を説明できる。
  - 2) 薬物療法の科学的根拠となる薬の作用の仕組みを説明できる。
  - 3) 薬物療法において患者や自身を守るための副作用・有害作用を説明できる。

**準備学修**

事前に配布された授業資料を活用した予習・復習、提出課題の作成および返却された課題の復習、その他の学習活動に全体で60時間を費やすこと。

**成績評価基準**

授業の復習や知識の整理の目的で、随時、課題およびGoogleForm による小テストを課す。定期試験時には、理解度および知識の確認の目的で、授業プリントや課題で示した国試形式問題を改変したマークシート試験を実施する。それぞれ、各50%として評価する。記述式課題は、根拠がきちんと述べられているかが採点のポイントである。締め切りに遅れた場合は、当該の課題点を1/2 に減点するので締め切り日に注意する。

**課題等に対するフィードバック**

小テストはその都度、正解を提示し、簡単な解説をする。提出課題は評価後に返却し、正答の掲示および解説を行う。

**教科書・参考書など**

(教科書)  
吉岡充弘 他『薬理学 疾病のなりたちと回復の促進[3]』医学書院

(参考書)  
田中千賀子 他『NEW薬理学』南江堂  
中原保裕 『処方わかる医療薬理学』学研メディカル秀潤社  
田中越郎 『イラストでまなぶ薬理学』医学書院

**《授業計画》**

回	担当教員名	学修内容
1	大久保つや子	ユニット1 薬理学総論 薬理学の基礎知識，薬物療法について学ぶ
2	大久保つや子	ユニット1 薬の生体内運命（薬物動態）を学ぶ 高齢者の薬物動態の特徴を知る
3	大久保つや子	ユニット1 薬物効果に影響する因子について学ぶ
4	大久保つや子	ユニット1 薬物の危険性について学ぶ
5	大久保つや子	ユニット2 抗感染症薬について学ぶ。
6	大久保つや子	ユニット2 抗癌薬について学ぶ。
7	大久保つや子	ユニット2 免疫治療薬について学ぶ。
8	大久保つや子	ユニット2 抗アレルギー薬・抗炎症薬について学ぶ。
9	大久保つや子	ユニット2 末梢神経作用薬について学ぶ。
10	大久保つや子	ユニット2 中枢神経作用薬について学ぶ。その1
11	大久保つや子	ユニット2 中枢神経作用薬について学ぶ。その2
12	大久保つや子	ユニット2 心臓・血管系に作用する薬について学ぶ。その1
13	大久保つや子	ユニット2 心臓・血管系に作用する薬について学ぶ。その2
14	大久保つや子	ユニット2 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬について学ぶ。
15	大久保つや子	ユニット2 物質代謝に作用する薬について学ぶ。

《専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進》

科目名	病態疾病論			科目コード	DN111430
評価責任者	得能 智武 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。			

**授業の目的とねらい**

病態疾病論IからVまでの5つの科目で完結する科目構成になっている。  
 病態疾病論Iで、様々な疾病の成り立ちについて、細胞レベルでどのようなことが起きているのか、また生体組織はどう変化（炎症やアレルギー反応など）するのかを学ぶことから始まる。  
 病態疾病論IIからIVにかけては、呼吸器や循環器などの臓器別に、臨床で扱うことが多い病気の特徴や検査・診断、そして治療法について順次学んでいく。病態疾病論Vでは、臓器別だけでなく、女性を対象とした妊娠、分娩などに関する経過や特徴と女性特有の疾患、および主な脳神経疾患や精神疾患について学ぶ。  
 看護実践に生かせるように、各ユニットの終わりには主な疾患と看護とのつながりを学ぶ回を設けており、病気の理解をした後に、それに対してどのような看護を展開していけばよいかセットで学べる構成になっているのが特徴である。  
 この科目の受講によって、臨地実習時に患者さんを受け持った際に、対象者の疾患の特徴の理解や、それに対する看護実践へ取り組みが十分にできるようになることにつながる知識の修得を目指している。  
 板書、パワーポイント、プリントを使用した教育を行う。  
 この科目では、生物学、生理学や解剖学の知識が必要となる。

**到達目標**

- 1.全体像の理解 知識 : 主な疾患の特徴、検査・診断、治療法、それらに対する看護の関わりを理解できる。
- 2.態度形成 態度 : 臓器の働きと疾患、疾患とそれに対する看護を考えることなど、それぞれの関連を応用できるようになる。
- 3.スキル形成 技能 :
  - 1) 細胞の障害と細胞死、組織の修復・再生について説明できる。
  - 2) 炎症の分類・組織の局所的変化と全身的变化について説明できる。
  - 3) 循環障害・血行障害の病因・病態について説明できる。
  - 4) 先天異常と遺伝子異常について説明できる。
  - 5) 腫瘍の分類、分化、グレード、ステージについて説明できる。
  - 6) 主な血液造血器疾患の検査・診断・治療について、病態と関連させて説明できる。
  - 7) 血液・造血器疾患と看護のつながりを考えることができる。

**準備学修**

授業前にシラバスで学習項目と行動目標を確認し、該当する部分の教科書に目を通しておく。  
 一コマにつき、事前1時間、事後1時間程度の学習活動をする(合計60時間)。授業で配布するプリントや返却された小テストなどについても予習、復習に活用すること。

**成績評価基準**

試験90%および出席・態度10%の割合で100点とする。

**課題等に対するフィードバック**

課題については、模範解答や模範的な説明をフィードバックします。

**教科書・参考書など**

教科書  
 野原隆司 他 「ナースング・グラフィカ【EX 疾患と看護】 循環器」メディカ出版  
 薊隆文 他 「ナースング・グラフィカ【EX 疾患と看護】 血液/アレルギー・膠原病/感染症」メディカ出版  
 山内豊明(編) 「ナースング・グラフィカ【疾病の成り立ちと回復の促進】 病態生理学」メディカ出版

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	岡村和彦	ユニット1: 疾病と病理学 1) 病態疾病論のガイダンス 病理学の意義を学ぶ 2) 病理と病気の関連から疾病の成り立ちを学ぶ
2	岡村和彦	ユニット2: 細胞の障害と細胞死、組織の修復・再生 1) 細胞の変性と壊死、細胞の障害(萎縮・変性・肥大)について学ぶ 2) 細胞死(ネクロシス・アポトーシス)について学ぶ 3) 組織の修復と再生について学ぶ 4) 創傷治癒、過形成について学ぶ
3	岡田賢司	ユニット5: 血液・造血器疾患 1) 血液・造血器疾患の主な症状の病態を学ぶ: 貧血、出血傾向、白血球減少症、血球貪食症候群、骨髄異形成症候群、播種性血管内凝固等 2) 血液・造血器系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ: 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、特発性血小板減少性紫斑病、血友病
4	岡村和彦	ユニット2: 細胞の障害と細胞死、組織の修復・再生 1) 細胞の変性と壊死、細胞の障害(萎縮・変性・肥大)について学ぶ 2) 細胞死(ネクロシス・アポトーシス)について学ぶ 3) 組織の修復と再生について学ぶ 4) 創傷治癒、過形成について学ぶ
5	岡村和彦	ユニット3: 炎症 1) 炎症について学ぶ 2) 炎症の分類・組織の局所変化と全身的变化について学ぶ 3) 感染症による炎症的变化について学ぶ
6	岡田賢司	ユニット5: 血液・造血器疾患 1) 血液・造血器疾患の主な症状の病態を学ぶ: 貧血、出血傾向、白血球減少症、血球貪食症候群、骨髄異形成症候群、播種性血管内凝固等 2) 血液・造血器系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ: 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、特発性血小板減少性紫斑病、血友病
7	岡村和彦	ユニット3: 炎症 1) 炎症について学ぶ 2) 炎症の分類・組織の局所変化と全身的变化について学ぶ 3) 感染症による炎症的变化について学ぶ
8	得能智武	ユニット6: 循環障害 1) 循環障害について学ぶ 2) 血行障害(虚血・充血・うっ血・出血)について学ぶ 3) 血栓症・塞栓症・梗塞の病因・病態について学ぶ
9	岡村和彦	ユニット4: 腫瘍 1) 腫瘍について(良性腫瘍と悪性腫瘍)を学ぶ 2) 腫瘍(分類、分化、グレード、ステージ)について学ぶ 3) 浸潤と転移について学ぶ
10	得能智武	ユニット6: 循環障害 1) 循環障害について学ぶ 2) 血行障害(虚血・充血・うっ血・出血)について学ぶ 3) 血栓症・塞栓症・梗塞の病因・病態について学ぶ
11	岡村和彦	ユニット4: 腫瘍 1) 腫瘍について(良性腫瘍と悪性腫瘍)を学ぶ 2) 腫瘍(分類、分化、グレード、ステージ)について学ぶ 3) 浸潤と転移について学ぶ
12	岡村和彦	ユニット4: 腫瘍 1) 腫瘍について(良性腫瘍と悪性腫瘍)を学ぶ 2) 腫瘍(分類、分化、グレード、ステージ)について学ぶ 3) 浸潤と転移について学ぶ
13	岡田賢司	ユニット5: 血液・造血器疾患 1) 血液・造血器疾患の主な症状の病態を学ぶ: 貧血、出血傾向、白血球減少症、血球貪食症候群、骨髄異形成症候群、播種性血管内凝固等 2) 血液・造血器系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ: 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、特発性血小板減少性紫斑病、血友病
14	岡田賢司	ユニット5: 血液・造血器疾患 1) 血液・造血器疾患の主な症状の病態を学ぶ: 貧血、出血傾向、白血球減少症、血球貪食症候群、骨髄異形成症候群、播種性血管内凝固等 2) 血液・造血器系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ: 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、特発性血小板減少性紫斑病、血友病
15	青野広子、荒川満枝	ユニット7: 疾患と看護とのつながり 血液・造血器疾患と看護とのつながりを学ぶ

《専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進》

科目名	病態疾病論			科目コード	DN111435
評価責任者	得能 智武 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。			

**授業の目的とねらい**

病態疾病論IからVまでの5つの科目で完結する科目構成になっている。  
 病態疾病論Iで、様々な疾病の成り立ちについて、細胞レベルでどのようなことが起きているのか、また生体組織はどう変化（炎症やアレルギー反応など）するのかを学ぶことから始まる。  
 病態疾病論IIからIVにかけては、呼吸器や循環器などの臓器別に、臨床で扱うことが多い病気の特徴や検査・診断、そして治療法について順次学んでいく。病態疾病論Vでは、臓器別だけでなく、女性を対象とした妊娠、分娩などに関する経過や特徴と女性特有の疾患、および主な脳神経疾患や精神疾患について学ぶ。  
 看護実践に生かせるように、各ユニットの終わりには主な疾患と看護とのつながりを学ぶ回を設けており、病気の理解をした後に、それに対してどのような看護を展開していけばよいかセットで学べる構成になっているのが特徴である。  
 この科目の受講によって、臨地実習時に患者さんを受け持った際に、対象者の疾患の特徴の理解や、それに対する看護実践へ取り組みが十分にできるようになることにつながる知識の修得を目指している。  
 板書、パワーポイント、プリントを使用した教育を行う。  
 この科目では、生物学、生理学や解剖学の知識が必要となる。

**到達目標**

- 1.全体像の理解 知識：主な疾患の特徴、検査・診断、治療法、それらに対する看護の関わりを理解できる。
- 2.態度形成 態度：臓器の働きと疾患、疾患とそれに対する看護を考えることなど、それぞれの関連を応用できるようになる。
- 3.スキル形成 技能：
  - 1) 主な免疫系・アレルギー系疾患の病態・診断・治療について説明できる。
  - 2) 小児・成人・老年期における主な感染症の病態・診断・治療および予防策（予防接種を含む）について説明できる。
  - 3) 主な呼吸器系疾患の診断・治療について病態と関連させて説明できる。
  - 4) 呼吸器系疾患と看護のつながりを考えることができる。
  - 5) 主な循環器系疾患の検査・診断・治療について病態と関連させて説明できる。
  - 6) 循環器系疾患と看護のつながりを考えることができる。

**準備学修**

授業前にシラバスで学習項目と行動目標を確認し、該当する部分の教科書に目を通しておく。  
 一コマにつき、事前1時間、事後1時間程度の学習活動をする（合計60時間）。授業で配布するプリントや返却された小テストなどについても予習、復習に活用すること。

**成績評価基準**

試験90%および出席・態度10%の割合で100点とする。

**課題等に対するフィードバック**

課題については、模範解答や模範的な説明をフィードバックします。

**教科書・参考書など**

教科書  
 讃井将満他 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ【EX 疾患と看護】 呼吸器  
 野原隆司他 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ【EX 疾患と看護】 循環器  
 薮隆文他 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ【EX 疾患と看護】 血液/アレルギー・膠原病/感染症  
 山内豊明他 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ【疾病の成り立ちと回復の促進】 病態生理学

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	岡田賢司	ユニット1：免疫・アレルギー・感染症 1)免疫系、感染防御系の健康障害と生体の反応を 2)自己免疫疾患、アレルギー性疾患、免疫不全症の病態・診断・治療 3)小児・成人・老年期における主な感染症の病態・診断・治療および予防策（予防接種を含む）
2	得能智武	ユニット2：循環器疾患 1)循環器疾患の主要な症状や障害の病態を学ぶ 主な症状や障害：心不全、不整脈、血圧異常、ショック、チアノーゼ
3	岡田賢司	ユニット1：免疫・アレルギー・感染症 1)免疫系、感染防御系の健康障害と生体の反応を 2)自己免疫疾患、アレルギー性疾患、免疫不全症の病態・診断・治療 3)小児・成人・老年期における主な感染症の病態・診断・治療および予防策（予防接種を含む）
4	得能智武	ユニット2：循環器疾患 1)循環器疾患の主要な症状や障害の病態を学ぶ 主な症状や障害：心不全、不整脈、血圧異常、ショック、チアノーゼ
5	岡田賢司	ユニット1：免疫・アレルギー・感染症 1)免疫系、感染防御系の健康障害と生体の反応を 2)自己免疫疾患、アレルギー性疾患、免疫不全症の病態・診断・治療 3)小児・成人・老年期における主な感染症の病態・診断・治療および予防策（予防接種を含む）
6	得能智武	ユニット2：循環器疾患 1)循環器疾患の主要な症状や障害の病態を学ぶ 主な症状や障害：心不全、不整脈、血圧異常、ショック、チアノーゼ
7	松元幸一郎	ユニット3：呼吸器疾患 1)呼吸器疾患の症状や障害の病態を学ぶ 主な症状：息切れ、咳嗽、喀痰、胸痛 主な障害：呼吸性アシドーシス・呼吸性アルカローシス、呼吸不全、肺循環障害
8	得能智武	ユニット2：循環器疾患 1)循環器疾患の主要な症状や障害の病態を学ぶ 主な症状や障害：心不全、不整脈、血圧異常、ショック、チアノーゼ
9	松元幸一郎	ユニット3：呼吸器疾患 2)慢性呼吸器疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎・肺線維症 3)腫瘍性呼吸器疾患と胸膜疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：肺癌、胸膜中皮腫、胸膜炎、気胸
10	得能智武	ユニット2：循環器疾患 2)循環器内科系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：虚血性心疾患、動脈疾患、静脈疾患、挫滅症候群 3)循環器外科系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：弁膜症、心筋・心膜疾患、先天性心疾患
11	得能智武	ユニット2：循環器疾患 2)循環器内科系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：虚血性心疾患、動脈疾患、静脈疾患、挫滅症候群 3)循環器外科系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：弁膜症、心筋・心膜疾患、先天性心疾患
12	松元幸一郎	ユニット3：呼吸器疾患 2)慢性呼吸器疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎・肺線維症 3)腫瘍性呼吸器疾患と胸膜疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：肺癌、胸膜中皮腫、胸膜炎、気胸
13	松元幸一郎	ユニット3：呼吸器疾患 4)感染性呼吸器疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：肺炎、肺結核、非結核性抗酸菌症
14	青木久恵	ユニット4：疾患と看護とのつながり 循環器疾患と看護とのつながりを学ぶ
15	宮園真美	ユニット5：疾患と看護とのつながり 呼吸器疾患と看護とのつながりを学ぶ



《専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進》

科目名	感染免疫学			科目コード	DN111440
評価責任者	荒川 満枝 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。			
<b>授業の目的とねらい</b>					
感染症は現在も医療の重要課題である。院内感染制御や感染症の対策や予防を、明確な根拠を持って実践できる看護師をめざして、微生物という生命体を理解した上で、感染症の症状、治療を学ぶと共に、生体の重要な防御機構である免疫学、その応用、感染予防方法の原理を理解し、臨床応用できる能力の基礎を形成する。					
<b>到達目標</b>					
1.全体像の理解 知識 1) 感染症を引き起こす病原体にはどのようなものがあるか、その感染様式と共に述べるができる。 2) 感染症の治療と病原体の滅菌や消毒について、またその限界について述べるができる。 3) 感染症に対する反応としての免疫と、その応用としての予防接種について述べるができる。 2.態度形成 態度 1) 流行している感染症について、自発的に調べるようになる。 3.スキル形成 1) エビデンスに基づいた感染予防行動がとれるようになる。 2) 他者への感染予防行動の啓発ができるようになる。					
<b>準備学修</b>					
予習・復習に必要な時間は全体で 20 時間とする。指定教科書や参考書等による予習、復習を行う。					
<b>成績評価基準</b>					
定期試験100%					
<b>課題等に対するフィードバック</b>					
課題については、模範解答や模範的な説明をフィードバックする。					
<b>教科書・参考書など</b>					
教科書：吉田 真一『系統看護学講座(専門基礎分野)疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学 第14版』医学書院，2022 参考書：吉田真一ほか編集『戸田細菌学，改訂34版』南山堂，2013 小熊 恵二ら編集『シンプル微生物学，第6版』南江堂，2018					

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	荒川満枝	コースオリエンテーション ・病原微生物について（細菌、ウイルス、真菌の違い） ・微生物と人との関係
2	荒川満枝	細菌の性質 ・形態とその特徴 ・細菌の分類 ・細菌の生育条件 ・毒素
3	荒川満枝	ウイルスの性質 ・ウイルスの形状 ・ウイルスの複製 ・ウイルスの複製
4	荒川満枝	感染と感染症 ・感染とは ・感染様式 ・感染経路 ・ベクターとその制御
5	荒川満枝	感染症の検査と治療 ・各種検査 ・化学療法薬 ・抗ウイルス薬
6	荒川満枝	呼吸器感染症の感染様式と治療と予防 ・インフルエンザ ・レンサ球菌 ・結核菌 ・ジフテリア, 百日咳
7	荒川満枝	消化器感染症を起こす病原体とその治療と予防 ・食中毒
8	荒川満枝	消化器感染症を起こす病原体とその治療と予防 ・肝炎ウイルス ・ノロウイルス ・ロタウイルス
9	荒川満枝	神経系に対する感染症をおこす病原体とその治療と予防 ・髄膜炎を起こす細菌 ・破傷風菌 ・狂犬病
10	荒川満枝	全身感染症をおこす病原体とその治療と予防 ・麻疹 ・風疹 ・水痘・帯状疱疹 ・ムンプス
11	荒川満枝	STD、血液・免疫疾患をおこす病原体とその治療と予防 ・梅毒 ・淋菌 ・HIV ・HTLV-1
12	荒川満枝	感染症に対する生体防御機構としての免疫系の構成 自然免疫と獲得免疫
13	荒川満枝	感染症に対する生体防御機構 ・液性免疫と細胞性免疫 ・感染症に対する免疫の活用
14	荒川満枝	滅菌と消毒
15	荒川満枝	医療関連感染の制御 ・感染症法 ・日和見感染・菌交代症 ・スタンダードプリコーション ・感染経路別対策

《専門分野 基礎看護学》

科目名	日常生活援助論演習			科目コード	DN111640
評価責任者	青木 久恵 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	45回
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。</li> <li>-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。</li> <li>-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。</li> <li>-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。</li> <li>-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。</li> </ul>				
<b>授業の目的とねらい</b>					
<p>授業のねらい</p> <p>1年生の後期にある本科目では、人間の日常生活行動を援助する基本的知識・技術・態度を修得する。日常生活行動を支える要素である「活動と休息」「清潔及び衣生活」「食事」「排泄」を単元として学習する。前半は単元ごとに必要な基本的知識について学習し、その援助方法について安全・安楽・自立の視点を踏まえた看護技術を修得する。後半の統合型演習は、最適な生活（well-being）を目指した援助について検討し、理解を深める。</p> <p>実務経験を生かした教育内容</p> <p>大学附属病院や公立病院等における看護師の実務経験を生かして、基本的な知識・技術・態度を踏まえた日常生活援助技術を教授するとともに対象者の個性に応じた援助についても指導する。また、看護師の実務経験やこれまでの教育経験を生かして、模擬患者に応じたカルテやシナリオを作成し、臨床現場に近づけた看護実践ができるよう指導する。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>1. 全体像の理解 知識</p> <p>1) 日常生活を営む人間の基本的ニーズと看護の役割について述べるができる。</p> <p>2) 日常生活行動を支える要素である「活動と休息」「清潔及び衣生活」「食事」「排泄」について、それぞれの意義と援助方法について説明することができる。</p> <p>3) 設定された事例に応じた日常生活援助について検討し、実施の判断、実施中の観察、実施後の評価に関する一連の看護実践過程のプロセスを述べるができる。</p> <p>2. 態度形成 態度</p> <p>1) 援助を受ける患者の思いを考え、真摯に学習や技術習得に取り組むことができる。</p> <p>2) 不明な点は積極的に質問をし、自己学習や自己練習に取り組むことができる。</p> <p>3) 今後の臨床実習を視野に入れた学習姿勢を習得できる。</p> <p>3. 技術</p> <p>1) 日常生活行動を支える要素である「活動と休息」「清潔及び衣生活」「食事」「排泄」における援助方法について、安全・安楽・自立の視点を踏まえた看護技術を習得できる。</p> <p>2) 設定された課題および条件に合わせて適切な看護技術を習得できる。</p>					
<b>準備学修</b>					
<p>講義前にシラバスで確認し、該当する部分の教科書に目を通しておく。本科目は、看護技術の習得も必要な科目であるため、演習項目は、技術に関する視聴覚教材を用いて事前にイメージができるようにしておくとともに、事前に配布する演習課題を基に要点を整理しておく。また、技術は、根拠を踏まえて、繰り返し技術練習を重ねることで習得可能となるため、積極的に自己練習をすることが望ましい。各単元（「活動と休息」「清潔及び衣生活」「食事」「排泄」）の講義を受けずに演習のみの出席をすることは認めないので、十分な注意を要する。看護技術は、対象者に実施可能なレベルに達するまでの反復の自己練習が必須であるため、予習や自己練習を含む45時間以上の学習を必要とする。</p>					
<b>成績評価基準</b>					
<p>筆記試験および看護技術のまとめ、授業態度を含む演習課題（80点）、統合型演習（20点）など総合100点で評価する。課題レポートは、形態機能学に関する事前課題や各単元で学修する演習の演習課題が主となる。提出前までの質問を受け付ける。看護技術のまとめは、チェックリストを用いて行う。但し、対象者の安全や安楽を脅かす危険行為があった場合は、0点とする。また、再試験（筆記）時、看護技術のまとめ時の欠席や課題提出率が80%未満は、再試験（筆記）の素点から看護技術のまとめ分10点、課題分20点を減点する。また、課題レポートは演習前の予習や演習後の看護技術の振り返りの記録が主となり、提出期限に遅れた場合は減点対象とする</p>					
<b>課題等に対するフィードバック</b>					
<p>提出されたレポートは評価後、各単元担当教員が定期試験前までに返却する。</p>					
<b>教科書・参考書など</b>					
<p>&lt;教科書&gt;</p> <p>深井喜代子 編 『新体系 看護学全書 基礎看護学2 基礎看護技術』メヂカルフレンド社、</p> <p>深井喜代子 編 『新体系 看護学全書 基礎看護学3 基礎看護技術』メヂカルフレンド社、</p> <p>任和子、井川順子 編 『根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術』医学書院、</p> <p>佐藤和良 著 『看護学生のための物理学』医学書院、</p> <p>阿部敏子 監修 『エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図』中央法規、</p> <p>池西静江、小山敦代、西山ゆかり 編 『アセスメントに使える 疾患と看護の知識』照林社、</p> <p>水田祥代、窪田恵子 監修 『授業・演習、臨床・在宅現場でも、すぐに使える！ 看護で教える最新の口腔ケア』大道学館出版部、</p> <p>福岡看護大学 『基礎看護学実習 実習要項』、福岡看護大学 『共通編実習要項』、福岡看護大学 『看護技術経験録』</p> <p>&lt;参考書&gt; 竹尾恵子監修 『看護技術プラクティス』学研</p>					

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	青木久恵	ユニット1 基礎看護学実習を見据えた日常生活援助論演習の取組み方について学ぶ。 ユニット2 日常生活援助論演習を受講するにあたっての準備や学び方について確認する。
2	門司真由美	ユニット3 睡眠と休息 睡眠・休息の意義とアセスメントの視点について学ぶ。
3	橋本 真弥 門司真由美	ユニット4 活動 活動の意義と援助方法について学ぶ。
4	橋本 真弥 門司真由美 香山真衣子 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット4 活動(演習) 活動の援助方法(車椅子およびストレッチャーでの移乗・移送)について学ぶ。
5	橋本 真弥 門司真由美 香山真衣子 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット4 活動(演習) 活動の援助方法(車椅子およびストレッチャーでの移乗・移送)について学ぶ。
6	香山真衣子	ユニット5 清潔と衣生活 皮膚や毛髪、粘膜の清潔と衣生活を整える意義、援助方法について学ぶ。
7	香山真衣子	ユニット5 清潔と衣生活 皮膚や毛髪、粘膜の清潔と衣生活を整える意義、援助方法について学ぶ。
8	香山真衣子	ユニット5 清潔と衣生活 皮膚や毛髪、粘膜の清潔と衣生活を整える意義、援助方法について学ぶ。
9	香山真衣子	ユニット5 清潔と衣生活 皮膚や毛髪、粘膜の清潔と衣生活を整える意義、援助方法について学ぶ。
10	門司真由美	ユニット5 清潔 口腔内の清潔を整える意義、援助方法について学ぶ。
11	橋本 真弥 門司真由美	ユニット6 食事 食事することの意義と援助方法について学ぶ。
12	橋本 真弥 門司真由美	ユニット6 食事 食事することの意義と援助方法について学ぶ。
13	香山真衣子	ユニット7 排泄 排泄することの意義と援助方法について学ぶ
14	香山真衣子	ユニット7 排泄 排泄することの意義と援助方法について学ぶ
15	門司真由美 香山真衣子 橋本 真弥 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット5, 7 清潔と衣生活、排泄 清潔の援助方法(洗髪、足浴、陰部洗浄、口腔ケア)について学ぶ。

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
16	香山真衣子 門司真由美 橋本 真弥 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット5, 7 清潔と衣生活、排泄 清潔の援助方法（洗髪、足浴、陰部洗浄、口腔ケア）について学ぶ。
17	香山真衣子 門司真由美 橋本 真弥 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット5, 7 清潔と衣生活、排泄 清潔の援助方法（洗髪、足浴、陰部洗浄、口腔ケア）について学ぶ。
18	香山真衣子 門司真由美 橋本 真弥 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット5, 7 清潔と衣生活、排泄 清潔の援助方法（洗髪、足浴、陰部洗浄）について学ぶ。
19	香山真衣子 門司真由美 橋本 真弥 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット5, 7 清潔と衣生活、排泄 清潔の援助方法（洗髪、足浴、陰部洗浄）について学ぶ。
20	香山真衣子 門司真由美 橋本 真弥 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット5, 7 清潔と衣生活、排泄 清潔の援助方法（洗髪、足浴、陰部洗浄）について学ぶ。
21	青木 久恵、荒川 満枝 門司真由美、香山真衣子 橋本 真弥、加峯 奈々 深川 知栄	ユニット8 well-beingを踏まえた統合型演習 基礎看護学実習に臨むにあたり、事例を用いた統合型演習の学び方（自己学習やグループワーク）と、事例の患者について学ぶ。
22	青木 久恵、荒川 満枝 門司真由美、香山真衣子 橋本 真弥、加峯 奈々 深川 知栄	ユニット8 well-beingを踏まえた統合型演習 基礎看護学実習に臨むにあたり、事例を用いた統合型演習の学び方（自己学習やグループワーク）と、事例の患者について学ぶ。
23	香山真衣子 門司真由美 橋本 真弥 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット5, 7 清潔と衣生活、排泄 清潔の援助方法（清拭）について学ぶ。 排泄の援助方法（オムツ交換）について学ぶ。
24	香山真衣子 門司真由美 橋本 真弥 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット5, 7 清潔と衣生活、排泄 清潔の援助方法（清拭）について学ぶ。 排泄の援助方法（オムツ交換）について学ぶ。
25	香山真衣子 門司真由美 橋本 真弥 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット5, 7 清潔と衣生活、排泄 清潔の援助方法（清拭）について学ぶ。 排泄の援助方法（オムツ交換）について学ぶ。
26	青木 久恵、門司真由美、 香山真衣子、橋本 真弥、 加峯 奈々、深川 知栄	ユニット8 well-beingを踏まえた統合型演習 設定された事例に応じた日常生活援助について検討し、実施の判断、実施中の観察、実施後の評価に関する一連の看護実践過程のプロセスについて学ぶ。 他職種共有シート、疾患の概要、医師指示、看護指示の整理及び修正
27	青木 久恵、門司真由美、 香山真衣子、橋本 真弥、 加峯 奈々、深川 知栄	ユニット8 well-beingを踏まえた統合型演習 設定された事例に応じた日常生活援助について検討し、実施の判断、実施中の観察、実施後の評価に関する一連の看護実践過程のプロセスについて学ぶ。 患者の日常生活上のニーズの充足・未充足
28	青木 久恵、門司真由美、 香山真衣子、橋本 真弥、 加峯 奈々、深川 知栄	ユニット8 well-beingを踏まえた統合型演習 設定された事例に応じた日常生活援助について検討し、実施の判断、実施中の観察、実施後の評価に関する一連の看護実践過程のプロセスについて学ぶ。 患者の日常生活上のニーズの充足・未充足 発表
29	青木 久恵、門司真由美、 香山真衣子、橋本 真弥、 加峯 奈々、深川 知栄	ユニット8 well-beingを踏まえた統合型演習 設定された事例に応じた日常生活援助について検討し、実施の判断、実施中の観察、実施後の評価に関する一連の看護実践過程のプロセスについて学ぶ。 援助計画 検討
30	青木 久恵、門司真由美、 香山真衣子、橋本 真弥、 加峯 奈々、深川 知栄	ユニット8 well-beingを踏まえた統合型演習 設定された事例に応じた日常生活援助について検討し、実施の判断、実施中の観察、実施後の評価に関する一連の看護実践過程のプロセスについて学ぶ。 援助計画 発表

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
31	青木 久恵、門司真由美、 香山真衣子、橋本 真弥、 加峯 奈々、深川 知栄	ユニット8 well-beingを踏まえた統合型演習 模擬患者を活用して、個別性のある看護を提供するための援助計画を立案し、患者に応じた看護実践について学ぶ。
32	青木 久恵、門司真由美、 香山真衣子、橋本 真弥、 加峯 奈々、深川 知栄	ユニット8 well-beingを踏まえた統合型演習 模擬患者を活用して、個別性のある看護を提供するための援助計画を立案し、患者に応じた看護実践について学ぶ。
33	青木 久恵、門司真由美、 香山真衣子、橋本 真弥、 加峯 奈々、深川 知栄	ユニット8 well-beingを踏まえた統合型演習 模擬患者を活用して、個別性のある看護を提供するための援助計画を立案し、患者に応じた看護実践について学ぶ。 模擬患者発表の説明
34	青木 久恵、門司真由美、 香山真衣子、橋本 真弥、 加峯 奈々、深川 知栄	ユニット8 well-beingを踏まえた統合型演習【模擬患者発表会】 シミュレーション（模擬患者を活用した演習）を通して、より実践的な看護援助について学ぶ。
35	青木 久恵、門司真由美、 香山真衣子、橋本 真弥、 加峯 奈々、深川 知栄	ユニット8 well-beingを踏まえた統合型演習【模擬患者発表会】 シミュレーション（模擬患者を活用した演習）を通して、より実践的な看護援助について学ぶ。
36	青木 久恵、門司真由美、 香山真衣子、橋本 真弥、 加峯 奈々、深川 知栄	ユニット8 well-beingを踏まえた統合型演習【模擬患者発表会】 シミュレーション（模擬患者を活用した演習）を通して、より実践的な看護援助について学ぶ。
37	青木 久恵、門司真由美、 香山真衣子、橋本 真弥、 加峯 奈々、深川 知栄	ユニット8 well-beingを踏まえた統合型演習【模擬患者発表会】 シミュレーション（模擬患者を活用した演習）を通して、より実践的な看護援助について学ぶ。
38	香山真衣子 門司真由美 橋本 真弥 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット9 看護技術（日常生活援助技術）のまとめ 設定された課題および条件に合わせた適切な看護技術について学ぶ。
39	香山真衣子 門司真由美 橋本 真弥 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット9 看護技術（日常生活援助技術）のまとめ 設定された課題および条件に合わせた適切な看護技術について学ぶ。
40	香山真衣子 門司真由美 橋本 真弥 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット9 看護技術（日常生活援助技術）のまとめ 設定された課題および条件に合わせた適切な看護技術について学ぶ。
41	香山真衣子 門司真由美 橋本 真弥 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット9 看護技術（日常生活援助技術）のまとめ 設定された課題および条件に合わせた適切な看護技術について学ぶ。
42	香山真衣子 門司真由美 橋本 真弥 加峯 奈々 深川 知栄	ユニット9 看護技術（日常生活援助技術）のまとめ 設定された課題および条件に合わせた適切な看護技術について学ぶ。
43	青木 久恵、門司真由美、 香山真衣子、橋本 真弥、 加峯 奈々、深川 知栄	ユニット8 well-beingを踏まえた統合型演習【模擬実習型シミュレーションの振り返りと発表会】 シミュレーション演習を実施した振り返りを行うことで実習への課題を明らかにし、より実践的な看護援助について学ぶ。
44	青木 久恵、門司真由美、 香山真衣子、橋本 真弥、 加峯 奈々、深川 知栄	ユニット8 well-beingを踏まえた統合型演習【模擬実習型シミュレーションの振り返りと発表会】 シミュレーション演習を実施した振り返りを行うことで実習への課題を明らかにし、より実践的な看護援助について学ぶ。
45	青木 久恵、門司真由美、 香山真衣子、橋本 真弥、 加峯 奈々、深川 知栄	ユニット8 well-beingを踏まえた統合型演習【模擬実習型シミュレーションの振り返りと発表会】 シミュレーション演習を実施した振り返りを行うことで実習への課題を明らかにし、より実践的な看護援助について学ぶ。 経験学習シート・ポートフォリオ 学びの発表会

《専門分野 基礎看護学》

科目名	フィジカルアセスメント演習			科目コード	DN111615
評価責任者	門司 真由美 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	15回
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。 -6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。			

**授業の目的とねらい**

授業のねらい 看護の対象となる様々な健康レベルの人々を理解するひとつの技法として、ヘルスアセスメントおよびフィジカルイグザミネーションを含めたフィジカルアセスメントがある。対象理解には、ヘルスアセスメントおよびフィジカルアセスメントに必要な基礎的な知識と技術と態度を身に着けることが重要である。そのため、ヘルスアセスメントやフィジカルアセスメントの意義と目的を学習し、フィジカルアセスメント技術を実践し、得られた情報から基準と逸脱について判断し、看護ケアに適用できるようにする。さらに、ヘルスアセスメントに必要な問診、視診、触診、聴診、打診などの身体的アセスメント、系統的フィジカルアセスメントに必要な基礎的知識・技術・態度を修得する。アセスメントには、各器官系統の構造と機能を把握しておく必要があり、解剖や生理学の知識を活用できるように準備しておく(1年次「形態機能学」参照)。特に、口腔を起点とした全身の健康支援を考えるためには、これらの知識を活用しながら、ヘルスアセスメントおよびフィジカルアセスメントを実践し、看護の対象となる様々な健康レベルの人々を理解する。さらに、DVDなどで事前学習を行い、技術の目的・根拠・手順の概要について把握し、技術習得については、自己演習を反復することが必須である。また、バイタルサインの一連の行為を正確に実施できることが求められる。

実務経験を生かした教育内容 大学附属病院や公立病院などにおける看護師の実務経験を生かして、ヘルスアセスメントおよびフィジカルイグザミネーションを含めたフィジカルアセスメントに必要な基礎的な知識・技術・態度を教授する。また、事例を用いながらバイタルサイン測定、フィジカルアセスメント技術について指導する。

**到達目標**

- 全体像の理解 知識
  - ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントについて理解できる。
  - バイタルサインに必要な、身体の構造と機能とバイタルサイン測定について理解できる。
  - 呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、神経系、感覚系のアセスメントについて理解できる。
- 態度形成 態度
  - 患者に羞恥心や不安を与えないようにバイタルサイン測定を行うことができる。
  - 報告時に、得られた情報から基準と逸脱について判断したことを踏まえた表現ができる。
  - 患者に羞恥心や不安を与えないように、呼吸・循環・腹部の聴診の情報を得ることができる。
  - 技術を振り返り、自己の課題を明確にできる。
- 技能
  - バイタルサイン測定技術を修得できる。
  - 各器官について、フィジカルイグザミネーションを活用し、得られた情報からアセスメントができる。

**準備学修**

バイタルサイン測定は、正確に実施できることが必須である。そのためには、正確に実施可能なレベルに達するための反復自己練習が必須であり、全体で15時間以上の学習を必要とする。また、事前にMoodleにあるバイタルサイン測定の動画を視聴し、自己学習すること。

**成績評価基準**

筆記試験(70点)、授業態度・課題・看護技術のまとめ(30点)などを総合100点で評価する。技術のまとめは、チェックリストを用いて行う。但し、対象者の安全や安楽を脅かす危険な行為があった場合は、0点とする。また、筆記試験の再試験時、看護技術のまとめを欠席または課題提出率が80%未満は、再試験(筆記)の素点から看護技術のまとめ分10点、課題分20点を減点する。課題レポートは、講義後の予習・復習課題や看護技術の演習記録が主となり、提出期限に遅れた場合には減点対象とする。また、課題レポート提出日まで質問を受け付ける。

**課題等に対するフィードバック**

提出されたレポートは評価後、各単元教員が定期試験前までに返却する。また、必要時講義の中で解説を行う。

**教科書・参考書など**

- <教科書>  
 三上れつ 小松万喜子 小林正弘 『ヘルスアセスメント 臨床実践能力を高める』 南江堂  
 深井喜代子 編 『新体系 看護学全書 基礎看護学2 基礎看護技術』 メヂカルフレンド社  
 任和子、井川順子 編 『根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術』 医学書院  
 水田祥代、窪田恵子 監修 『授業・演習、臨床・在宅現場でも、すぐに使える! 看護で教える最新の口腔ケア』 大道学館出版部  
 浅野嘉延 著 『アセスメントができるようになる 検査まるわかりガイド』 照林社  
 福岡看護大学 『基礎看護学実習 実習要項』、福岡看護大学 『看護技術経験録』、福岡看護大学 『共通編実習要項』  
 <参考書>  
 竹尾恵子 監修 『看護技術プラクティス』 学研

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	門司真由美 得能 智武	ユニット1：フィジカルアセスメントとヘルスアセスメント フィジカルアセスメントとヘルスアセスメントについて学ぶ。
2	加峯 奈々 門司真由美 得能 智武	ユニット2：バイタルサイン測定 必要な、身体の構造と機能について理解し、バイタルサイン測定について 学習、バイタルサイン測定の方法を修得する。
3	加峯 奈々 門司真由美 得能 智武	ユニット2：バイタルサイン測定 必要な、身体の構造と機能について理解し、バイタルサイン測定について 学習、バイタルサイン測定の方法を修得する。
4	門司真由美 晴佐久 悟 得能 智武	ユニット3：口腔・咽頭・腹部のアセスメント 口腔・咽頭・腹部のアセスメントについて学ぶ。
5	加峯 奈々、門司真由美 香山真衣子、橋本 真弥 深川 知栄、得能 智武	ユニット2：バイタルサイン測定（演習） 必要な、身体の構造と機能について理解し、バイタルサイン測定について 学習、バイタルサイン測定の方法を修得する。
6	加峯 奈々、門司真由美 香山真衣子、橋本 真弥 深川 知栄、得能 智武	ユニット2：バイタルサイン測定（演習） 必要な、身体の構造と機能について理解し、バイタルサイン測定について 学習、バイタルサイン測定の方法を修得する。
7	深川 知栄 門司真由美 得能 智武	ユニット4：呼吸器系のアセスメント 呼吸器系のアセスメントについて学ぶ。
8	得能 智武	ユニット5：循環器系のアセスメント 循環器系のアセスメントについて学ぶ
9	加峯 奈々、門司真由美 香山真衣子、橋本 真弥 深川 知栄、得能 智武	ユニット6：バイタルサイン技術のまとめの講評および振り返り バイタルサイン技術の振り返りとフィジカルアセスメントに関連した知識の整理 を行い、総合的なまとめを通して、対象に応じたフィジカルアセスメントに ついての理解を確認する。
10	加峯 奈々、門司真由美 香山真衣子、橋本 真弥 深川 知栄、得能 智武	ユニット6：バイタルサイン技術のまとめの講評および振り返り バイタルサイン技術の振り返りとフィジカルアセスメントに関連した知識の整理 を行い、総合的なまとめを通して、対象に応じたフィジカルアセスメントに ついての理解を確認する。
11	加峯 奈々、門司真由美 香山真衣子、橋本 真弥 深川 知栄、得能 智武	ユニット6：バイタルサイン技術のまとめの講評および振り返り バイタルサイン技術の振り返りとフィジカルアセスメントに関連した知識の整理 を行い、総合的なまとめを通して、対象に応じたフィジカルアセスメントに ついての理解を確認する。
12	深川 知栄、門司真由美 香山真衣子、橋本 真弥 加峯 奈々、得能 智武	ユニット7：フィジカルアセスメント技術のまとめの講評および振り返り フィジカルアセスメント技術の呼吸音の聴診の方法を修得する。事例について 、呼吸に関する情報を収集し、得られた情報から基準の逸脱を判断し、アセス メントする。
13	門司真由美 得能 智武	ユニット8：骨・骨格系のアセスメント 筋・骨格系のアセスメントについて学ぶ。
14	橋本 真弥 門司真由美 得能 智武	ユニット9：神経系・感覚器系のアセスメント 神経系・感覚器系のアセスメントについて学ぶ。
15	門司真由美、加峯 奈々 香山真衣子、橋本 真弥 深川 知栄、得能 智武	ユニット10：フィジカルアセスメントのまとめ バイタルサイン技術の振り返りとフィジカルアセスメントに関連した知識の整理 を行い、総合的なまとめを通して、対象に応じたフィジカルアセスメントに ついての理解を確認する。



科目名	看護理論			科目コード	DN111620
評価責任者	青木 久恵 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。 -2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。 -3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。			

**授業の目的とねらい**

1年生の後期にあるこの科目では、看護を志す者として、看護の歴史の礎を築きながら、看護をより科学的にかつ論理的に学問としての発展に寄与した主な看護理論家の看護の捉え方について学習します。特に、看護理論家の看護の捉え方については、看護の主要概念である4つのメタパラダイムを学習し、看護の実践での活用についての基礎的知識を得ることを目指しています。この科目は、毎回看護理論家の看護理論を予習や復習に取り組みることによって、学修の成果が得られるように構成されています。(実務経験を生かした教育内容)

大学附属病院や公立病院等における看護師の実務経験を生かして、事例を通して看護理論を活用し看護の意味を考える教育内容とする。また、対象者の最適な生活 (well-being) を目指す上での看護理論との関連についても説明する。

**到達目標**

- 全体像の理解 知識
  - 本授業で学ぶ学習内容の概略を述べるができる。
  - 看護理論の歴史的変遷の概要を説明できる。
  - 看護理論を学ぶ意義を述べるができる。
  - 各看護理論における理論家の概要(看護の捉え方や看護の実践での活用)について説明できる。
- 態度形成 態度
  - 積極的な学修態度を養うことができる。
  - 発表会を通して、看護理論に関心を払い聴くことができる。
- スキル形成
  - 課題に沿って、自己学修に役立てる為の図書館利用法やパソコン検索方法を活用できる。
  - 課題に沿って、内容を整理し要約できる。
  - 学習した看護理論の内容をプレゼンテーションできる。
  - 他者のプレゼンテーションを基にディスカッションできる。

**準備学修**

学生は、必須または推奨される読書、課題、授業配付プリントなどの予習・復習といった学習活動に全体で30時間以上の学習を必要とする。

**成績評価基準**

筆記試験(50点)、授業態度・課題(50点)などを総合して評価する。課題の締め切りに遅れた場合は、減点されるので、締め切り日に注意する。また、課題レポートの提出率が80%未満の場合は、定期試験の再試験受験の際に20点の減点を行う。授業態度には、授業に臨む姿勢、プレゼンテーション、グループ討議などのディスカッションが含まれる。

**課題等に対するフィードバック**

課題は、適宜提示する。  
 課題提出まで質問を受け付ける。  
 提出された課題は評価後、各担当教員が定期試験前までに返却する。

**教科書・参考書など**

教科書：  
 筒井真由美編：『看護理論(改訂第3版)看護理論21の理解と実践への応用』，南江堂  
 F. ナイチンゲール，薄井坦子，小玉香津子他訳，『看護覚え書』，現代社  
 H. ヘンダーソン，湯槇ます他訳，『看護の基本となるもの』，日本看護協会出版会

参考書：  
 筒井真優美編；『看護理論家の業績と理論評価』，医学書院

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	青木久恵	ユニット1・授業の概要と看護理論とは何かについて学ぶ。 看護理論の歴史の変遷の概要を学ぶ。 看護理論と看護実践のつながりについて考え方を学ぶ。 F. ナイチンゲールの著書「看護覚え書」を基に環境に着目したナイチンゲールの取組みと現在に生かす看護実践について学ぶ。
2	青木久恵	ユニット2・V. ヘンダーソン V. ヘンダーソンの著書「看護の基本となるもの」を基に人間の基本的ニーズに着目したヘンダーソンの主張や現在の看護実践への適用について学ぶ。
3	青木久恵	ユニット3・HE. ペプロウ、A. ウィーデンバック 対人関係に着目して理論を構築したペプロウの人間関係の看護論について学習する。また、プロセスレコードを発展させたA. ウィーデンバックについての学習を深め、看護実践への活用について学ぶ。
4	門司真由美	ユニット4・SC. ロイ 適応システムとしての人間の捉え方とロイ適応看護モデルについて学習し、看護実践への活用について学ぶ。
5	原やよい	ユニット5・DE. オレム セルフケア理論について主要概念などの概略を学習し、看護実践への活用について学ぶ。
6	青木久恵、門司真由美、香山真衣子、加峯奈々、橋本真弥、深川知栄	ユニット6・ 事例をヘンダーソンの視点に基づき検討し、看護理論を用いた看護の考え方について学びを深める。
7	青木久恵、門司真由美、香山真衣子、加峯奈々、橋本真弥、深川知栄	ユニット6・ 事例をヘンダーソンの視点に基づき検討し、看護理論を用いた看護の考え方について学びを深める。
8	青木久恵	ユニット7・看護師の成長に関する看護理論とまとめ 看護師の成長という視点でP. ベナーの看護理論について学習し、看護を学ぶ初学者として、看護師の熟達者から学ぶ姿勢について考察する。

《専門分野 基礎看護学》

科目名	基礎看護学実習			科目コード	DN111605
評価責任者	青木 久恵 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	23回
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。			

**授業の目的とねらい**

授業のねらい

1年生の後期にある本実習では、患者の日常生活行動の観察やコミュニケーションを通して、入院による環境の変化や健康障害、治療などにより患者が身体的・精神的・社会的な影響を受けていることを理解し、患者が最適な生活 (well-being) を営めるための日常生活援助が実践できる知識・技術・態度を修得する。その中で、看護技術の原理・原則に基づき、患者の状態に合わせた器質的口腔ケア方法を修得する。

実務経験を生かした教育内容

大学付属病院や公立病院等における看護師の実務経験をいかし、患者との援助的人間関係を基盤に、日常生活上のニーズを充足できるための問題解決過程について指導する。患者への直接看護の際には、当該病院の看護師である実習指導者の指導の下、患者の個性に応じた安全・安楽な看護が実施できるよう支援する。

**到達目標**

1. 日常生活援助の実施

- 1) 受け持ち患者を生活者として捉え、日常生活行動のアセスメント方法を理解することができる。
- 2) 臨地実習指導者からの説明を受けて、受け持ち患者の疾患や障害、および治療内容について理解し、日常生活行動への影響を理解することができる。
- 3) 患者の全体像について把握し、日常生活上の援助の必要性を理解することができる。
- 4) 患者の最適な生活 (well-being) を目指した日常生活行動の援助計画を立案することができる。
- 5) 患者の安全・安楽・自立・個性を踏まえた日常生活援助の方法を理解することができる。
- 6) 実施した援助に対する評価の方法を理解することができる。

2. 患者との援助的人間関係の構築

- 1) 患者との援助的人間関係構築の方法が理解できる。

3. 看護専門職としての態度

- 1) 看護専門職者としての倫理観を持ち、自立した学習姿勢を身につけることができる。

**準備学修**

1. 実習開始前:

1) 実習オリエンテーション 2) 事前学習: 健康障害や老化現象が身体的・精神的・社会的側面へ及ぼす影響 (特にセルフケア能力)、日常生活行動のアセスメント 口腔の機能と口腔の清潔援助、受け持ち患者の障害および疾患、治療、バイタルサインの測定と観察結果の意味づけ、3) 日常生活援助に関する看護技術、バイタルサインの測定、フィジカルアセスメント技術に関する演習

**成績評価基準**

実習評価表に基づき実習目標の達成度について、実習担当教員が実習指導者と協議し、総合的に評価する。

学生による中間評価を積極的に行って、実習期間中に実習目標を到達できるようにする必要がある。

実習評価は、実習評価表に基づき、実習目標の到達度を総合的に評価する。

**課題等に対するフィードバック**

日々の実習の中で、実習指導者および実習担当教員の助言を受ける。実習要項の実習進度をもとに日々の課題スケジュールを立案し、翌日の課題は、前日の実習時間内に見通しをつけられるよう、積極的に取り組む必要がある。

実習終了時には実習担当教員による面接を実施し、フィードバックを受ける。

**教科書・参考書など**

<教科書>

- 福岡看護大学 『基礎看護学実習 実習要項』 『共通編実習要項』 『看護技術経験録』  
 深井喜代子 編 『新体系 看護学全書 基礎看護学2 基礎看護技術 第6版』 メヂカルフレンド社  
 深井喜代子 編 『新体系 看護学全書 基礎看護学3 基礎看護技術 第5版』 メヂカルフレンド社  
 池西静江 小山敦代 西山ゆかり 編 『アセスメントに使える疾患と看護の知識』 照林社  
 阿部俊子監修 山本則子編 『エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図』 中央法規  
 水田祥代・窪田恵子 監修 『授業・演習、臨床・在宅現場でも、すぐに使える！看護で教える最新の口腔ケア』  
 第1版 大道学館出版部  
 仁和子 井川順子 編 『根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術』 医学書院

## 《授業計画》

### 授業内容及び担当教員

#### 【担当教員】

青木久恵、荒川満枝、門司真由美、香山真衣子、加峯奈々、橋本真弥、深川知栄、末永陽子、秋永和之、町島希美絵、宮坂啓子、山中富、寒水草納、青野広子、中西真美子、原やよい、有永麻里、黒岩千翔、小島美里、吉田あや

#### 【学習内容】

1. 受け持ち患者を生活者として捉え、日常生活行動のアセスメント方法を理解する。
  - 1) 受け持ち患者の日常生活行動に関する情報について、患者・カルテ・医療従事者から情報収集を行い、行動毎に記述できる。
  - 2) 得られた情報から、日常生活行動の自立度についてアセスメントした結果を記述できる。
  - 3) 障害や入院により、日常生活行動の自立度の変化について記述できる。
  - 4) 口腔の機能および清潔状態についてアセスメントができる。
2. 臨地実習指導者からの説明を受けて、受け持ち患者の疾患や障害、および治療内容について理解し、日常生活行動への影響を理解する。
  - 1) 受け持ち患者の疾患や障害について、正常な生理機能とどのように異なっているかについて記述し説明できる。
  - 2) 受け持ち患者の現在受けている治療内容について記述し、説明できる。
  - 3) 医師からの指示内容について記述し、説明できる。
  - 4) 患者のバイタルサイン測定を正確に実施することができる。

「詳細は実習要項へ記載」

《専門分野 成人・高齢者看護学》

科目名	成人看護学概論			科目コード	DN111700
評価責任者	岩本 利恵 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。</li> <li>-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。</li> <li>-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。</li> <li>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。</li> <li>-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。</li> <li>-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。</li> </ul>			
<b>授業の目的とねらい</b>					
<p>成人看護学概論は、成人看護学は基礎看護学と共に看護学の基盤をなす科目であるので、看護を志す者として看護の主要概念を学び看護の視点を身につけていく科目と位置付ける。成人期は、社会の一員として就労し、新たな家族や友人関係を育み、新たな役割や仕事を確立していく年代にある。身体的には、基礎代謝を含む身体の生理的状況が安定するとともに生殖機能が成熟する。また、仕事や家庭、及び地域での役割を通して、自らの特性や価値観を自覚していく。その一方で、加齢に伴う身体機能の低下を自覚し始める。このような発達課題を踏まえ、健康レベルに応じ、個々の人生設計に沿ったセルフケア、療養を支える看護を学ぶことを目的とする。</p> <p>この科目は、講義内でのディスカッションと毎回の課題にきちんと取り組むことによって、学修の成果が得られるように構成されている。また、事例を用いて情報の収集・整理からアセスメント、看護問題の発見などを行い、健康の担い手としての看護師の視点や役割について自ら考える姿勢を養っていく。</p> <p>実務経験を生かした教育内容          大学付属病院や慢性期・急性期病院における臨床看護実践経験を活かし、疾病や障害とともに生きる対象者および家族の最適な生活 (well-being) を目指した看護の実践を指導する。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>知識・理解</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 成人期にある人の身体的・心理的・社会的及びスピリチュアルな側面を説明できる。</li> <li>2) 成人期にある人の身体的・心理的・社会的及びスピリチュアルな側面が健康問題に及ぼす影響を説明できる。</li> <li>3) 成人期にある主な健康課題について述べるができる。</li> <li>4) 成人期の主な健康課題と発達課題を踏まえ身体的・心理的・社会的な側面の影響について述べるができる。</li> <li>5) 必要な療養やセルフケアについて、社会生活に求められる仕事と生活の観点から就労生活、家族生活との両立を支援する方法について理解できる。</li> </ol> <p>態度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護者としての視点や態度を身につける。</li> <li>2) 専門職者として学び続ける態度を身につける。</li> </ol> <p>技能</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「看護の視点」で健康科学についてディスカッションできる。</li> <li>2) 成人期の健康課題について、発達課題を踏まえ、身体的・心理的・社会的情報から、包括的にアセスメントできる。</li> </ol>					
<b>準備学修</b>					
<p>事前学習：事前にシラバスの学習項目について予習を行い、講義を受ける。自己学習ノートを作成しておくことが望ましい。事前学習をして講義、グループディスカッションに週に約3.6時間を費やすこと。</p>					
<b>成績評価基準</b>					
<p>筆記試験(80点)、レポート(小テスト、事前学習課題、事後学習課題20点)レポートは、A-Eの5段階で評価する。これらの合計で評価する。</p>					
<b>課題等に対するフィードバック</b>					
<p>事前学習、事後課題、小テストやり直しなど、提出物のすべては、評価後に返却し、正答の掲示および解説を行う。</p>					
<b>教科書・参考書など</b>					
<p>教科書：安酸史子、鈴木純恵他 編 『成人看護学(1)成人看護学概論』ナースニング・グラフィカ メディカ出版          参考書：『国民衛生の動向』厚生労働省統計協会</p>					

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	岩本利恵	成人期の対象者の全人的な側面が健康問題に及ぼす影響について理解する。 1) 成人の様々な定義を比較して、成人とは何かを説明できる。 2) 社会の中の生活者という視点から、成人の役割を述べるができる。 3) 健康増進を社会インフラと関連させ諸外国と比較し述べるができる。 4) 重要概念について述べるができる。
2	岩本利恵	成長・発達に応じた特徴と生活習慣、ストレス関連疾患、職業病を学ぶ。 1) 成人各期の健康問題の特徴と対策について述べるができる。 2) AYA世代の小児期から引き継ぐ疾患の看護について述べるができる。 3) 健康問題を引き起こす要因、ストレス関連疾患、ライフスタイルと健康問題の関連、職業病の原因と対策について述べるができる。
3	内田荘平	クリティカルケア看護の概念、患者の特徴、患者の生命・生活を支える援助の概要を理解する。 1) クリティカルケア看護の基本的概念、患者の特徴、実施場所、その特徴と問題点を述べるができる。 2) 過大侵襲を受けた患者の生体反応について述べるができる。
4	内田荘平	侵襲の大きな治療を受ける対象者の心理特性とケアについて学ぶ。 1) 心的なストレスと身体的な反応について関連性を述べられる。 2) 危機理論の歴史的発展について述べるができる。 3) 重要な危機理論の特徴について述べるができる。 4) 危機に関連した重要概念について述べるができる。
5	内田荘平	成人期の急性期や回復期の特徴と、看護の視点を学ぶ。 1) 急性期、回復期の概念について述べるができる。 2) 侵襲を受けた身体の反応と回復過程について述べるができる。 3) ムーアの反応について述べるができる。 4) 急性期にある患者の家族のケアについて述べるができる。
6	岩本利恵	成人慢性期の理論と概念、患者の特徴、生活を支える援助について理解する。 1) 慢性、慢性期、慢性疾患の特徴、慢性疾患の動向を学ぶ。 2) 慢性疾患のライフスタイルへの影響について学ぶ。 3) 慢性期疾患をもつ人への看護の在り方、生活者としての捉え方を学ぶ。 4) 慢性疾患を有する人が喪失しやすいものについて学ぶ。
7	岩本利恵	成人慢性期の理論と概念とその看護について理解する。 1) 慢性期における疾患、障害の受容に関連する概念を学ぶ。 2) 慢性期におけるQOLを高めるための概念について学ぶ。 3) AYA世代の小児期から引き継ぐ慢性疾患の特徴について学ぶ。 4) 慢性期における多職種連携、専門職連携について学ぶ。
8	岩本利恵	成人期終末期の理論と概念とその看護について理解する。 1) 終末期、緩和期について理解する。 2) 終末期、緩和ケアの対象となる人およびその家族の特徴を学ぶ。 3) 終末期、緩和期の全人的苦痛、全人的ケアについて学ぶ。 4) 死の受容とその看護について学ぶ。

《専門分野 公衆衛生看護学》

科目名	公衆衛生看護学概論			科目コード	DN111810
評価責任者	吉田 大悟 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。</li> <li>-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。</li> <li>-3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活 (well-being) に向けた看護を計画的に実践できる。</li> <li>-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。</li> <li>-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。</li> <li>-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。</li> <li>-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。</li> </ul>			
<b>授業の目的とねらい</b>					
<p>本講義では、公衆衛生看護及び保健師活動の全体像を理解することを目的とする。そのために、公衆衛生看護学の基本理念や目的、地域（行政・産業・学校）における公衆衛生看護活動の方法の実際や健康危機管理について学ぶ。また、公衆衛生看護活動を展開する場および発達段階別の対象者に対する公衆衛生看護活動の展開方法を総論的に学ぶことで、公衆衛生看護学の理解を深めていく。本概論は、保健師養成課程の必修科目であり、後に開講される公衆衛生看護学関連科目の基礎になる位置づけとなる。</p> <p>&lt;実務経験を生かした教育内容&gt;</p> <p>講義では、保健師活動の実践経験がある講師がその経験を生かして教授する。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>1.全体像の理解 知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 公衆衛生看護の理念と公衆衛生看護活動の概念を理解し、説明できる。</li> <li>2) 行政・産業・学校における公衆衛生看護活動について理解し、説明できる。</li> <li>3) 地域保健に関する法令の概要について理解し、説明できる。</li> <li>4) 地域保健活動のツールについて理解し、説明できる。</li> </ul> <p>2.態度形成 態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 公衆衛生看護活動について興味関心を持ち、講義に積極的に参加し学ぶことができる。</li> </ul> <p>3.スキル形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 公衆衛生看護活動の理念、公衆衛生看護における倫理、公衆衛生看護活動の対象や活動方法と特徴についてレポートにまとめることができる。</li> </ul>					
<b>準備学修</b>					
<p>講義前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。学生は課せられる課題や、その他学習活動に60時間を費やすこと。</p> <p>講義後は、教科書を用いて講義内容を復習すること。</p>					
<b>成績評価基準</b>					
筆記試験（80％）、授業態度・課題内容（20％）とし、総合100点で評価する。					
<b>課題等に対するフィードバック</b>					
<p>講義で作成するレポート等は教員が確認し、適宜助言を行う。</p> <p>全講義終了後、提出されたレポートについて成績評価を実施する。</p>					
<b>教科書・参考書など</b>					
<p>（教科書）</p> <p>荒賀直子 他 編集 『公衆衛生看護学 第6版』 インターメディカル</p> <p>厚生労働統計協会 『国民衛生の動向2023/2024』 厚生労働統計協会</p> <p>（参考書）</p> <p>井伊久美子 他 編集 『新版 保健師業務要覧 第4版』 日本看護協会出版会</p>					

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	吉田大悟	ユニット1 公衆衛生看護学の概念と変遷 <ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生看護学の概念について</li> <li>・ヘルスプロモーションについて</li> <li>・公衆衛生看護の歴史について</li> <li>・医療経済と保健活動、保健医療福祉システムについて</li> </ul>
2	吉田大悟	ユニット1 地域保健の活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生看護活動の場、活動内容、方法について</li> <li>・保健師が行う保健指導について</li> <li>・保健行動と保健活動について</li> <li>・社会環境の変化と健康課題について</li> </ul>
3	吉田大悟	ユニット2 地域保健活動のエレメント <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域保健活動過程と保健師活動について</li> <li>・地域におけるグループ支援・地域保健組織について</li> <li>・地域ケアシステムについて</li> </ul>
4	吉田大悟	ユニット3 地域保健活動のツール <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭訪問について</li> <li>・健康相談について</li> <li>・健康教育について</li> </ul>
5	吉田大悟	ユニット3 地域保健活動のツール <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診査について</li> <li>・グループ支援・地域組織活動について</li> </ul>
6	吉田大悟	ユニット4 地域保健の対象アプローチ <ul style="list-style-type: none"> <li>・成人保健活動について</li> <li>・難病保健活動について</li> </ul>
7	寒水章納	ユニット4 地域保健の対象アプローチ <ul style="list-style-type: none"> <li>・母子保健活動について</li> <li>・高齢者保健活動について</li> </ul>
8	吉田大悟	ユニット4 地域保健の対象アプローチ <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者保健活動について</li> <li>・精神保健活動について</li> </ul>
9	寒水章納	ユニット4 地域保健の対象アプローチ <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症保健活動について</li> <li>・歯科口腔保健活動について</li> </ul>
10	吉田大悟	ユニット5 健康危機管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康危機管理の定義と現状について</li> <li>・災害保健活動について</li> </ul>
11	寒水章納	ユニット6 生活集団と保健活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健の概念と歴史について</li> <li>・学校保健制度とシステムについて</li> <li>・養護教諭の職務内容について</li> <li>・学校におけるおもな健康課題について</li> </ul>
12	吉田大悟	ユニット6 生活集団と保健活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業保健の概念と変遷について</li> <li>・産業保健制度とシステムについて</li> <li>・産業保健にともなう健康課題について</li> <li>・労働安全衛生管理と保健師活動について</li> </ul>
13	吉田大悟	ユニット6 生活集団と保健活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅ケアの概念と歴史について</li> <li>・在宅ケアの対象と援助について</li> <li>・在宅ケア制度、在宅ケアマネジメント、在宅ケア管理について</li> </ul>
14	吉田大悟	ユニット7 公衆衛生看護管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生看護管理の目的と機能、対象について</li> <li>・これからの公衆衛生看護管理について</li> </ul>
15	吉田大悟	ユニット8 保健師活動の展望 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師の活動と倫理的問題について</li> <li>・国際保健の現状と課題について</li> <li>・これからの保健師・看護師活動について</li> </ul>



科目名	家族看護論			科目コード	DN112845
評価責任者	飯野 英親 各回の担当教員は授業計画にて確認してください			授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。 -2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。			

**授業の目的とねらい**

この科目では、家族機能をシステムとしてとらえ、家族のセルフケア能力（健康保持・増進・介護機能）を高めるために必要な家族のアセスメント方法と、家族支援の視点について、家族看護に関する主な理論やモデルについて理解し、家族全体のアセスメント力を修得することを目指す。

**到達目標**

- 全体像の理解（知識）
  - 1) 家族構成、キーパーソンについての情報収集方法について説明できる。
  - 2) 家族関係が療養を必要とする患者に及ぼす影響、患者の療養体験が家族構成員に与える影響を説明できる。
  - 3) 家族看護に必要な情報、家族看護の方法について説明できる。
  - 4) 患者個人と家族における意志決定の意義などについて説明できる。
  - 5) 慢性疾患の事例を通し、家族のセルフケア能力を高めるための方策、家族看護の視点での評価について説明できる。
- 態度形成（態度）
  - 1) 関連する予習を行ったうえで授業に参加する。
  - 2) 患者の療養生活と家族の関係性を学ぶ積極的な学修態度を養う。
- スキル形成（技能）
  - 1) 患者の療養生活に影響を与える家族情報に注目して、看護情報としてアセスメントできる。
  - 2) 慢性疾患の事例を通し、家族全体に対してアセスメントができる。
  - 3) 課題に対し、適切な引用文献を用い、自分の考えや資料からの引用を要約し、レポートを作成することができる。

**準備学修**

家族、社会制度に関する既習の科目について復習を行っておく。授業前にシラバスの該当する部分の教科書を読んでおく。予習・復習に必要な時間は全体で29時間とする。

**成績評価基準**

本科目の学修成果は、課題レポート（80%）、グループワーク、反転授業等の参加状況（20%）などから総合的に評価する。提出物の期限が守れなかった場合は減点対象とする

**課題等に対するフィードバック**

課題等へのフィードバックは授業を通してリフレクションする。

**教科書・参考書など****教科書**

鈴木和子、渡辺裕子、佐藤律子著『家族看護学 第5版』、日本看護協会出版会、2019

**参考書**

小林奈美著『グループワークで学ぶ家族看護論 第2版』、医歯薬出版株式会社、2021

岡堂哲雄編『系統看護学講座 基礎分野 家族論・家族関係論』、医学書院、2020

その他適宜提示する。

**《授業計画》**

回	担当教員名	学修内容
1	飯野英親	ユニット1 家族システム理論 家族システム論について理解する。
2	飯野英親	ユニット1 家族システム理論 システムズ - アプローチによる家族アセスメントについて理解する。
3	飯野英親	ユニット2 家族看護の進め方 看護専門職の役割について理解する。 家族看護の方法の概要について理解する。
4	飯野英親	ユニット2 家族看護の進め方 家族が危機を乗り越えるための看護者としてのアプローチについて理解する。
5	飯野英親	ユニット2 家族看護の進め方 家族が危機を乗り越えるための看護者としてのアプローチについて理解する。 家族看護に必要な情報、患者の療養に有益な家族情報に着目、アセスメントで きる。
6	飯野英親	ユニット2 家族看護の進め方、家族に対する看護の展開方法を理解する。慢性 疾患の事例を通し、家族に対してアセスメントができる。
7	飯野英親	ユニット2 家族看護の進め方、家族に対する看護の展開方法を理解する。 慢性疾患の事例を通し、家族のセルフケア能力を高めるための看護計画を立案 できる。
8	飯野英親	ユニット2 家族看護の進め方、家族に対する看護の展開方法を理解する。 慢性疾患の事例を通して家族看護の視点での看護実践の評価について説明でき る。